
第10回 日野町議会定例会会議録 (第2日)

令和4年12月8日(木曜日)

議事日程

令和4年12月8日 午前10時開議

日程第1 一般質問

通告順番1 4番 松尾 信孝 議員
通告順番2 5番 中原 信男 議員
通告順番3 6番 松本 利秋 議員
通告順番4 7番 安達 幸博 議員
通告順番5 3番 金川 守仁 議員

本日の会議に付した事件

日程第1 一般質問

通告順番1 4番 松尾 信孝 議員
通告順番2 5番 中原 信男 議員
通告順番3 6番 松本 利秋 議員
通告順番4 7番 安達 幸博 議員
通告順番5 3番 金川 守仁 議員

出席議員 (10名)

1番 中山 法 貴	2番 梅 林 敏 彦
3番 金 川 守 仁	4番 松 尾 信 孝
5番 中 原 信 男	6番 松 本 利 秋
7番 安 達 幸 博	8番 佐々木 求
9番 竹 永 明 文	10番 小 谷 博 徳

欠席議員 (なし)

欠 員（なし）

事務局出席職員職氏名

局長 ————— 飛 田 朋 伸 書記 ————— 中 田 早 文
書記 ————— 浦 部 俊 一

説明のため出席した者の職氏名

町長 ————— 塚 田 淳 一 副町長 ————— 音 田 守
教育長 ————— 生 田 求 総務課長 ————— 景 山 政 之
住民課長兼会計管理者 — 荒 木 憲 男 企画政策課長 ————— 神 崎 猛
健康福祉課長 ————— 住 田 秀 樹 産業振興課長 ————— 五 百 川 和 久
建設水道課長 ————— 音 田 雄 一 郎 教育課長 ————— 遠 藤 律 子
代表監査委員 ————— 長 谷 部 正 人

午前10時00分開議

○議長（小谷 博徳君） おはようございます。ただいまの出席議員数は10人であり、定足数に達していますので、これより令和4年第10回日野町議会定例会2日目を開会いたします。

本日の定例会は、マスク着用や換気を行うなど、新型コロナウイルス対策を講じて進めます。

出席議員にはタブレット端末機の使用を例規の確認のため許可をしますので、御了承ください。

直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付いたしました日程のとおりであります。

日程第1 一般質問

○議長（小谷 博徳君） 日程第1、一般質問を行います。本定例会におきましては、9名の議員から一般質問の通告を受けております。

通告順に発言を許します。

なお、音声を拾わない事例が発生していますので、質問及び答弁をされる際はマイクを体の正面に向けて発言をしていただきたいと思いますようお願いをいたします。

最初に、松尾議員の一般質問を許します。

4番、松尾信孝議員。

○議員（4番 松尾 信孝君） おはようございます。一般質問をさせていただきます。

今日は、凶らずも一番最初の質問ということでございます。まだ皆さんお元気なうちなので、一生懸命やりたいと思いますので、よろしく願いいたします。

今日は、自治体DX、この問題について質問させていただきたいと思います。自治体DXって一体なんだろうって、我々もあまり今までよく分からなかったし、恐らく町民の方もなかなかじみのない言葉だと思います。ここんところについては、今日最初に、町長からは町長のお考えになってる自治体DXについて御説明いただきたいと思います。

いずれにしても、今さら言うことでもないですけど、まさに今、世の中はデジタルの時代になっておるわけです。これまでは、ただそれは便利だということで活用すればよかったわけなんですけど、最近、特にマイナンバーカードとかそういうような形で我々の生活、我々自身の在り方にも非常に迫ってくるような時代になってまいりました。役場でも、職員の方はほとんど全員がパソコンを前にして仕事をされているわけです。デジタル化っていうのは、役場業務のほとんどのところにおいて浸透していると言ってもよろしいと思います。この技術革命を、業務の一層の効率化、住民サービスのさらなる向上に活用することは、今の町政に当たって、今の行政においては重要かつ喫緊の課題であるというふうに思うわけです。したがって、本日は以下のことについてまず質問をさせていただきます。

1、町長がお考えになっている自治体DXとは何であるのか、改めてお伺いいたします。

2番目、DX推進という課題の重要度をどのように町長は認識していられるのでしょうか。さらに、役場業務の自治体DX化の現状を伺います。

3番目、今後、自治体DXをどのように進めていくつもりであるのか。それを体制、人材の育成、時期はどうするのか。このところについてお伺いいたします。

最後に、この自治体DXをこれから推進するに当たって、議会というのはどういうふうに関わればいいのか、その辺りについて意見をお伺いしたいと思います。よろしく願いいたします。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 4番、松尾議員さんからの御質問にお答えいたします。

まず初めに、町長の考える自治体DXとは何かとのお尋ねでございます。スマートフォンの普及をはじめとしたデジタル技術の発展、普及は、私たちの生活に大きな影響を与え、近年では経済社会構造にこれまで以上の改革をもたらしつつあります。このような状況にあって、2020年初め頃からの新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、仕事や生活の在り方を大きく変え、ウェブ会議やオンライン授業、テレワークやワーケーションなど、働き方やワーク・ライフ・バラ

ンスの変化を加速させております。国は、2020年12月25日に閣議決定されたデジタル・ガバメント実行計画において、自治体が重点的に取り組むべき事項、内容を具体化するとともに、自治体デジタルトランスフォーメーション推進計画において、デジタル社会の構築に向けた取組を全自治体において着実に進めていくこととされております。また、デジタル社会の実現に向けた改革の基本方針において、目指すべきデジタル社会のビジョンとして、「デジタルの活用により、一人ひとりのニーズに合ったサービスを選ぶことができ、多様な幸せが実現できる社会～誰一人取り残さない、人に優しいデジタル化～」が示されてるところでございます。いわゆるDXは、デジタルトランスフォーメーションの略でございますが、デジタル技術を活用し、今までの仕組みを変える、例えばこれまで紙で受けていた、手作業で処理していた書類を、紙から電子申請に変えた上でデジタル技術により自動処理することで、処理にかかる時間を大幅に削減することができた事例などがあります。私としましては、デジタル技術を活用することで職員の作業の手間や負担を減らし、住民の皆様への対応を充実させたり、これまでできなかった業務に取り組んだりすることができることが最大の効果だと思います。こういった変革を重ねていくことで、便利で、早く、利用しやすい行政となることが大切であると考えているところでございます。そのためには、スマートフォンなどのデジタル技術を活用して、つながる行政、行政内部のデジタル化、町全体へのデジタル化を推進し、住民が安全で安心して暮らせるまちづくりを目指してまいりたいと考えてるところでございます。

次に、役場業務のDX化、デジタルトランスフォーメーション化の現状についてのお尋ねでございます。自治体の重点取組事項といたしましては、自治体の情報システムの標準化、共通化、マイナンバーカードの普及促進、自治体の行政手続のオンライン化、自治体のAI、RPAの利用促進、テレワークの推進、セキュリティー対策の徹底などが上げられます。これらの課題を解決していくために、令和4年2月24日に日野町DX推進本部を立ち上げ、本部会議や各部会を継続的に開き、本町での取組を進めているところでございます。

役場業務の現状を申しますと、昨年度に財務システムの電子決裁化や、文書管理、電子決裁システムを導入し、本年度から運用を開始しております。また、ウェブで会議ができるよう、施設の改修や機器の整備を行っております。そのほか、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、出勤して業務ができない場合などに自宅でも業務が行えるよう、業務用のパソコンを持ち出し、セキュリティーを確保した上で役場業務ができるテレワークの仕組みも導入しているところでございます。現在は、マイナンバーカードの普及促進に力を入れており、来年度からはマイナンバーカードによるコンビニエンスでの住民票などの交付や、QRコードを利用した税金の支払いが可

能となるよう準備を進めてるところでございます。さらには、子育てや介護などに係る行政手続をオンラインで実施できるよう取り組んでおります。DXの推進は、多岐の分野にわたることから、引き続き全庁一丸となって取り組んでまいりたいと思います。

次に、今後の進め方についてのお尋ねでございます。先ほども申しましたとおり、多岐の分野にわたっての取組が必要でございます。まず、体制と時期といたしましては、日野町DX推進本部を中心として分野ごとの検討に着手しており、実行可能なものから導入に向けての作業を進めてるところでございます。人材育成につきましては、今年度より職員がICTへの知識を身につけられるよう、ITパスポートの資格を取得するよう取り組んでいるところでございます。本年度は、9名の職員が取り組んでおり、今後も継続してまいりたいと考えております。しかしながら、人材育成の課題といたしましては、デジタル技術への専門的知識にたけている職員がいないことが上げられます。そこで、このたびの補正予算では、職員のデジタルに関する知識を補う意味で、デジタル技術の活用検討に当たり相談し、助言等をいただけるよう、専門的な機関に支援業務を委託し、より多角的な面からDXを進めてまいりたいと考えております。デジタル技術を活用していく上で様々なアドバイスをいただき、住民にとって便利で、早く、利用しやすい行政となるよう取り組んでまいります。

最後に、議会に求めることはありませんかとお尋ねでございます。これからの時代、デジタル技術を活用し、今までの仕組みを変えていくことは避けて通れない時代となっております。町のDXを進めていくためには、議会、さらには議員の皆様と議論を重ね、御理解をいただきながら将来のまちづくりに取り組んでまいりたいと思います。以上でございます。

○議長（小谷 博徳君） 4番、松尾信孝議員。

○議員（4番 松尾 信孝君） 自治体DXについて御説明いただき、大体お尋ねしてることにしてお答えいただきました。さらに突っ込んで質問したいと思うんですが、いずれにしても、このお答えは、つまりはデジタル技術の発展により社会変革が起こっていると、政府もデジタル社会の構築に向けた取組を全自治体において進めていくという方針であるということで、実は、この自治体DXについて、あんまり今まで説明がされてこなかったんですね。議会に対しても、自治体DXっていう言葉はあったんですけど、なかなか自治体DXっていうのは本当はこういうもんだということがなかなか説明をされてきませんでしたという私は印象を持っております。それがゆえに、実は6月に2,000万の予算をかけてスマホを配るとかっていう提案があったわけですけど、これに対しても、ちょっと本当にそれでよかったのかっていう若干、私も思ったわけですけど、この自治体DXを勉強すればするほど、やっぱり6月は、一旦あれは下ろし

てもらったほうがよかった。なぜかといえば、この自治体DXって非常に奥深くて、最初のやっぱり取っかかりで間違えると、ずっと後々まで引っかかってくるんじゃないかなと思うわけでして、そういう意味では、町も推進本部っていうものを立ち上げてるわけですから、そこでしっかりこの自治体DXについては考えながらやっていただくということは非常に、これが必要であるんじゃないかと私は思っております。

それともう一つは、自治体DXっていうのは、これからの課題というよりはむしろもう我々を取り巻く、言ってみれば地方自治、地方の行政を取り巻く所与のようなもんでして、これをやっぱり所与、既に自分たちが置かれてる状況、ですから、これの中でどうやっていくかというのが問題であると思います。

もう一つ言いますと、やっぱり自治体DXで行政効率化していかないと、今、地方には交付税とかいろいろ出てきてますけど、やっぱり私は、例えば今、話題になってます防衛費の、これ財源どうするかとかいろんなあれの中で、やはり自治体に対して交付されてるところがだんだん締めつけが来るんじゃないかと。そういう意味でいけば、やっぱり我々自身がこのDXを使った効率化っていうのは進めていかなきゃいけないというふうに思うわけで、これがやっぱり自治体DXの今の背景だと私は思っております。

それで、日野町においては、さっきから言いましたように、日野町DX推進本部というのが立ち上がりました。まず、このDX推進本部、現状はどのように今、機能しているのか。例えばメンバーについては3月に御説明いただいたので分かりますが、どれぐらいの頻度で、どういうことをテーマにして今この推進本部というのは開催されているのかお伺いいたします。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 自治体DXについての重ねての御質問でございます。今、町のDX推進本部の活動はどのような状況になってるかっていうようなお話ですので、これは具体ですので担当課長のほうから答弁させたいと思いますが、今、議員さんのお話を聞いててちょっと私のほうも混乱する部分があるんですけども、自治体DXの対義語は何なんだろうと思って。DXは別に自治体ばかりじゃなくて、むしろ民間のほう走ってる、民間さんがどんどんどんどん行ってる。そのときに、自治体DXっていうような概念があって、その自治体DXの中には役場業務のDX化もありますし、また自治体がガバメントしてる地域のDX、そういったものがある。そういうような状況の中、そういうふうな理解の中で、今、私どもDX推進本部でいろいろ目標を定めたり、取組を進めてるっていうことを御理解いただきたいと思います。詳細は担当課長から説明させます。

○議長（小谷 博徳君） 景山総務課長。

○総務課長（景山 政之君） 松尾議員からの御質問がありました日野町DX推進本部、またその他部会等の活動内容につきまして御説明をさせていただきたいと思います。先ほど町長が説明しましたとおり、2月に日野町DX推進本部のほう立ち上げております。その後、体制等、また重点的に取り組む事項、この本部会議のほうで会議を開いております。5月に1回目を、7月に2回目を開催してるところでございます。

その中で、DXといっても多岐にわたる分野がございます。推進本部の整理としましては、自治体内のDXの業務デジタル化、これを進めていくというまず一つの柱がございます。これは、先ほどいろいろな国のDXの推進計画の中に示している分野の業務についてデジタル化を進めるという部分で1つの柱といたしております。もう一つは、自治体のDXの、自治体内の業務の見直しや効率化。また、地域のDX、こういったものを進めるためのものという柱が2つ目でございます。それと、3つ目の柱としましては、職員がまずDXについて理解を深める必要がございます。そういう研修会を行ったり、ITパスポートを受講して職員のデジタルへの知識を高めていくというものが3つ目の柱ということで、大きなものとしてはその3本柱ということになるかと思っております。

その中で、推進本部の中で日野町として何に取り組むかという部分を本部会議で議論をいたして、まず部会の中で一つとしまして、デジタルディバイド部会、そういったものを立ち上げております。こちらは、情報格差、これに対する過疎地域である本町でございます、情報格差が発生しないように取り組んでいく必要がございますので、今のデジタルではスマホをやっぱり中心とした取組が必要ではないかという部分がございます。6月の議会でも提案させていただいた内容等も踏まえて、現在、その中でデジタルディバイド部会のほうで議論を重ねているところがございます。こちらの部会は、現在、総務省の地域情報アドバイザー、愛媛大学の坂本教授からも参加していただいて、現在3回、会議を開いております。1回はオンラインで行っております。2回目は、日野町にお越しいただいて議論をしとるということで、今後、内容を深いものにしていきたいということでございます。また、ドローン活用検討部会ということで、ドローンを活用してDXに向けての推進をしたいということで、こちらもドローン活用検討部会、8月に会議のほう行つとるということでございます。また、自治体の行政手続のオンライン化の検討部会ということで、介護保険の申請であったり、児童手当の申請であったり、そういった国が定める行政手続のオンライン化というものがございますが、それに対応するための部会を開催いたしております。こちらは9月のほうに1回開催ということでございます。また、もう国のほうで取組が進め

られておる部分で、情報システムの標準化・共通化の検討部会、こういったものも開いております。こちらは5月と10月に2回開いとるところでございます。また、マイナンバーカードの普及促進部会ということで、こちら8月、9月に部会を開いて、現在、9月には強化月間ということで取組を行いました、そういった形で部会のほう推進してるというところでございます。

また、職員の研修といたしましては、OCR、RPAの勉強会ということで、実際に業者のほうにデモを見さしていただいて、どういうものかということで、まずその意味合いを勉強いたしたところがございます。今後は、その内容を踏まえて、業務のほうに使っていけないかという部分を議論してまいりたいというふうに思っております。体制的にはこのような形で活動いたしております。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 4番、松尾信孝議員。

○議員（4番 松尾 信孝君） このDX推進本部、立ち上がったばかりっていても、もう半年以上もたってるわけですけど、いろいろまだ職員の方も勉強されてるところで、実際に住民に今度、役場内でのDX化っていうのは当然のことながらっていいですか、政府のほうの、総務省のほうのいろんな指針もあったりして、それなりに情報データの推進、標準化とかそういうことは進んでるように思いますんで、それに従ってやっていただければいいと思う。やっていただければいいっていいですか、それに従ってやってらっしゃるというふうに思います。

もう一つ、やっぱり住民サービスに直結したところのDX化、これが、今もう総務課長のお答えの中で、それについてこれからどういうふうにやっていけばいいのかということを検討をするというふうにおっしゃいました。私なりに、ちょっとだけいろいろ考えてみて、本当にこれがスマホなりを使ったいろんな双方向のコミュニケーションができれば、いろんな活用ができるんじゃないか。例えば、身近なあれでいけば、この前も質問しましたごみの収集についてこのDXを使えないかとかといいますか、スマホを使えないかと。今、集積所が各集落に1個ずつ大体あるわけですけど、これを二、三軒一つでミニ集積所のようなものをつくって、これを住民の方が、例えばスマホで今日は出しましたとかっていう情報を入れれば、役場で持ってる地図の中にそのミニ集積所が出たっていうことが分かる。それによって、出たところを集めて、実際に今の集積所に回ってくる落合さんが来る前に、その集積所を集めると、どなたが集めるかっていうのはまたこれもあれですけど、そういう形でこの前、私は提案しました、もう少し運搬の距離が狭まるんじゃないかな、短くなるんじゃないかという一つの対応が、役場と住民の方との双方向のコミュニケーションでこういうことも可能になっていくんじゃないか、そういうようなことを私いろ

いろいろ考えました。やっぱりスマホを使った住民サービスっていうのは物すごい、いろいろ奥深くで幅広いんですよ。例えば、買物の見守りサービスとか、これもぱっとひらめいたんですけど、回転ずしでやってるような、メニューを見てこれを、これを、これをと、今日はこれを注文しますっていうのは、それこそ地図を上でこの家は今日はマヨネーズ1つとか出てきますと、それをお店で、あいきょうさんのほうで見て、あ、ここにはこれだって、幾つかをそのうち田中さんなら田中さんの家によって袋に1つ入れて用意しとくと、これもまた配送する業者っていいですか、依頼した方がそれを持って今度、各家を配達して行って、そうすれば安否の確認もできるわけですし、もちろんっていいですか在庫もきちんと、これですと、持って行って売れなかったって持ち帰ることもないわけですし、いろんなやっぱり使い方が私は出てくるんじゃないかと思うんですよ。この前提は、実は町内でどこでもスマホがつながるっていうことが、これ自治体DXの住民部分のサービスの向上で、町内どこでも自治体、スマホがつながるっていうことが前提なんですよね。その辺について、町長は今、町内のスマホのつながり具合についてどのように把握してるんでしょうか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 町内の、要は、どういうんですか、スマートフォンであったり携帯電話であったりのつながり具合、どういう状況で把握してるかっていうことをございます。詳細はまた担当課長に答えさせたいと思いますけれども、今年度に入っても不感地帯があるかないか、そういうような調査もさせていただいて、若干、どういうんですか、大手のキャリアさんのんが全く入らない地域もあるっていうふうに承知しております。この詳細は担当課長のほうから説明させます。

○議長（小谷 博徳君） 景山総務課長。

○総務課長（景山 政之君） スマホにつきましては、やはり携帯電話の電波を使って利用することが多いと思います。先ほど町長が申し上げましたとおり、10月に独自に調査を行いました。一部の地域については、全てのキャリアで通信事業者のほう、つながらない地区があるというのも改めて認識したところをございます。ただ、スマホにつきましては、携帯の電波だけではなく、日野町が事業といたしました光ケーブルの敷設を行っております。これによりまして、携帯電波のみならず、御家庭でWi-Fiを設置していただくことでスマホを対応することができるということで、携帯の電波は届かないところをございますが、そういった光ケーブルを利用することによって一定程度スマホの利用をカバーできるものというふうに考えております。以上をございます。

○議長（小谷 博徳君） 松尾議員、ちょっと質問の整理したいですが、今、1番ですかね、3番

に入っとんなあだかいね。

○議員（4番 松尾 信孝君） もうそういう意味では、まだ……。

○議長（小谷 博徳君） まだ1番ですか。

○議員（4番 松尾 信孝君） 2番ですね。

○議長（小谷 博徳君） はい。ちょっと整理上、今どこの質問なのかというのが。

○議員（4番 松尾 信孝君） 2番に関連してやっておりますが。

○議長（小谷 博徳君） どうぞ。

4番、松尾信孝議員。

○議員（4番 松尾 信孝君） スマホが繋がらないところ、これは大事なんですよ、実は。Wi-Fi使えばいいという話なんですけど、これさっき言いましたこと、もう一つのあれで、例えば防災に、やっぱり双方向のスマホっていうのはすごく重要だと思うんですね。災害があったときに電気が届かなかったら、そのWi-Fiも使えないわけですよ。そういう意味でいけば、やはり町内全域にスマホが使えるような、質問は、ここを解消するためにどんなふうなことをお考えなんでしょうか。スマホが繋がらない場所、これ残すわけにはいかないんですよ、繋がらないところごめんさいねで済まないわけです。町長はどのようにそこを克服していくおつもりであるのか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 非常に特殊な環境っていうか、特殊な状態、要は電気が来ない、それから光ケーブルのない、極端に言えば、そうはいつでも人家のある場所、それから人が行き交う場所っていうようなことだと思います。深山、奥山っていうわけではないと思います。

○議員（4番 松尾 信孝君） 災害時、災害が起こって電気が来なかったときに、そういうことなんです。

○町長（埴田 淳一君） そういう意味で、どういうんですか、過去の議会でも鵜の池公園が電波が弱いところがあるよっていうようなお話で、いろいろちゃんとそういう電波が届くような地域にしてほしいっていうのがございました。キャリアさんのほうに改善っていうか、何とかならんかっていうようなお話を今させていただいておりますし、またあわせて、不感地区、そういったものの解消について、これは県のほうとも協力しながら、さらには中国山地の岡山と鳥取の県境の町村さんの、どういうんですか、協議会っていうのがございまして、これもやはり中国山地沿いのところにそういう不感のところがあるっていうことです。何とかこれをしていかないといけない、国に強く働きかけていきたいっていうようなそういう今、動きの中で一緒に動いてるとこ

ろでございます。

○議長（小谷 博徳君） 4番、松尾信孝議員。

○議員（4番 松尾 信孝君） 非常に特殊な山ん中の話じゃなくて、現在、人が住んでるところでもまだつながってないところもあるということは、これはやっぱりゆゆしき問題だと思うんです。実は私の家だって、家ん中に入ったらスマホの電波は届かないんですよ、Wi-Fiで。そういう実態もよく調べて、なおかつ、これは国の進める事業なんですから、国にやっぱり強く働きかけて、県と一緒にでも、それぐらいの姿勢が必要ではないかと思うわけです。

3番目の、今後、自治体DXをどういうふうに進めるつもりであるのかっていうところに移りますが、人材育成についてはお答えをいただきました。まずそこで、ITパスポートっていうふうな言及があったんですけど、これITパスポートってどういうものなのか、ちょっと御説明いただきたいと思います。

○議長（小谷 博徳君） 景山総務課長。

○総務課長（景山 政之君） 松尾議員の質問にお答えいたします。ITパスポートはどのようなかとお尋ねでございます。ITパスポートにつきましては、ITを利活用する全ての社会人、これからの社会人となる学生が備えておくべきITに関する基礎的な知識が証明できる国家試験となっております。具体的には、AIなどの新しい技術や新しい手法の概要に関する知識をはじめ、経営全般の知識、あとITセキュリティーやネットワーク、そういったものの知識、プロジェクトマネジメントの知識など、幅広い分野の総合的知識を問う試験というふうになっております。こういったものを職員に受けていただいて、デジタル技術の活用ができる人材を育成したいというふうに考えております。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 4番、松尾信孝議員。

○議員（4番 松尾 信孝君） 今、このパスポートの保持者って何人いらっしゃるんですか。

○議長（小谷 博徳君） 景山総務課長。

○総務課長（景山 政之君） 現在、職員では2名が取得しとるという状況でございます。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 4番、松尾信孝議員。

○議員（4番 松尾 信孝君） その方の所属と、どういうことやってらっしゃるのか、参考のためにお教えいただければ。

○議長（小谷 博徳君） 景山総務課長。

○総務課長（景山 政之君） 2名の職員につきましては、やはり役場内でそういうシステム関係

に携わっていた、また、おる職員が取得しとるという状況でございます。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 4番、松尾信孝議員。

○議員（4番 松尾 信孝君） 人材育成のところ、町長は今、補正で上がってます50万円で3か月いろいろ助言、指導をしてもらおうという方、私はこれよく分からないのは、これまた御説明があると思うんですけど、こちら、受ける側はこの助言をどういう人がどういう機会に、どんな形で受けるのか。これは、それが今度また全協に出たときにも、もう少し聞くつもりなんですけど。なぜかという、やっぱりこれから人材をどうやって育成していくかについて、やはりきちんとした、ただ単に聞けばいいという話じゃなくてあるわけですから、そのところについて一つ、この方のイメージと、受ける側はどういうふうな対応をするのか、もう一度お聞かせいただきたいです。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） DXに取り組むに当たっていろいろな取組、課題がある。人材の育成、これは本当に大切なことなんです。特に、DX、先ほどからITであったりICTであったり、それからAIであったり、いろいろ英語の略語っていうかIT技術の略語っていうか、非常に取っつきにくいっていうか、慣れてしまえば全然問題ないんかもしれませんけれども、例えばIT、先ほど総務課長が言いましたけど、ITパスポート、Information Technology、ICTがInformation and Communication Technology、どれだけ違うかっていうようなことも、勉強していく上では非常に大切なことになるって私は思ってます。それをちょっと前段にして、このたびの補正予算でそういうデジタル技術の活用検討に当たって、相談、助言をいただく専門的な機関についてどういうことを期待してるかっていうようなお話。さらには、どういうんですか、職員をどれだけ対象にしてとか、どういうやり方をするのかっていうような、どういう活用、具体的なお話ですので、ちょっと総務課長のほうから補足させます。

○議長（小谷 博徳君） 景山総務課長。

○総務課長（景山 政之君） こちらの支援につきましては、現在、先ほどから申しておりますように、国が示している自治体DX、こういったものを進める中で、セキュリティー対策の徹底とかそういったことがうたわれております。我々職員だけではそのセキュリティー対策の知識、十分ではございません。各システムについて業者との連携を図っておりますが、その業者のみの知識ではまだ不十分で、いろいろな部会等で検討する中で、こういったセキュリティーがこの町にふさわしいか、そういったものを助言、相談できる、そういったことも考えておりますし、自治

体のシステムが標準化・共通化していく上で、日野町としてどういうふうに取り組んでよいかという部分を御相談、御支援いただいたり、マイナンバーの普及についても、どういったセキュリティーで、どういう流れで処理をしていくべきかという部分も、ベンダーの話のみならず、そういう広い知識を持っておられる、そういう企業と連携を取って、一緒になってベンダーさんとかそういうシステムの業者から提案があったものを日野町として本当に取り組んで有効に使っているかという部分を、職員を支援していただくような意味で進めていきたいという部分での支援、相談を考えているというものになります。取りあえず以上です。

○議長（小谷 博徳君） 4番、松尾信孝議員。

○議員（4番 松尾 信孝君） これにつきましては、全協で御説明がさらにあると思いますので、そこでもう少し掘り下げさせていただきたいと思います。

時間の関係で、もうそういう意味では、じゃあ今後の課題ということについて、質問項目じゃないですけど、私なりに整理してお答えいただけるところはお答えいただきたいと思うんですが、この自治体DXを進める上で、私も今の御答弁も聞いたりした上で課題と考えるのは、まずやっぱり、これ住民の方々のところですけど、デジタルディバイドの解消、それは2つありまして、スマホの使えない方いるわけですね、スマホ利用人口をどうやって増大していくかと。それから、さっきも言いましたスマホが繋がらない場所をどうやって解消していくか。2番目のことについてはある程度お答えいただきました。スマホ利用人口の増大っていうのは、どんなふうこれから、今までも随分やられたと思うんですけど、これらがどう取りかかっているのか、これもマストなんですよね、やらなければいけないことなんですよ。お答えいただけますか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 議員さんの重ねての質問、3つ目がちょっとなかなか整理し切れなかったっていうか、捉え切れなかったんでちょっと時間かかりました、申し訳ございません。デジタルディバイドの解消、まさにこれ必要です。これは住民の方だけじゃなくて組織内もなんですけれども、それとか議員御指摘の繋がらない箇所、どういうんですか、対策、こういったものも国に働きかけていかないといけないんじゃないかっていう御提案ですので、確かにそのとおりかなと思います。

あと、スマホ利用人口のっていうこと。これもデジタル推進本部の中でいろいろなったんです。スマホを利用しなくても、どういうんですか、スマホを利用しないと生活できないっていうわけでもない、ただ、利用してほしい、デジタル化に向かって利用してほしいけれども、何か利用したいっていうインセンティブをどういう形で住民の方にお伝えするのかっていうのが、一つ大き

な解決策っていうか課題だろうと思ってます。やはり、スマホを持っているとこういう楽しみ方ができるとか、こういう際にちゃんと利用できる、そういうようなものを、どういうんですか、お届けしたい、それはアプリっていうか既存のものもあるかもしれませんが、また違う、新しくせんといけんものもあるかもしれません。その辺はまた費用対効果を見ながら、いろいろ検討をしてみらないといけないと思います。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 4番、松尾信孝議員。

○議員（4番 松尾 信孝君） 例えば、スマホを持ってなくても暮らしていけると、例えばさっきもちよこつと言いました防災のことについて、もっときめ細かくカメラを置きまして、今、全町一斉に避難指示だとか、避難何とかが出てくるわけですけど、ぴんとこないところもあるわけですね。これを、例えばもう少し細かく貝原地区のどこどこは避難してくださいとか、それはそういうカメラの情報を見ながらそういう指示も出せるんじゃないかと。それはやっぱり自分の身にも関わることだから、やっぱり皆さん、あ、スマホ持つことによってこれはこういうメリットがあるんだ、例えばそんなふうに、もう少し皆さんで住民の方々がスマホ持つことによってどういうメリットがあるんだということもよくお考えになって、住民の方に御説明いただきたいなというふうに思います。

時間がないので次に行きますけど、デジタルDX進める上での財源の問題なんですけど、6月の補正のときには、あれはコロナの給付金というので2,000万というのが出てきたいうふうに記憶してるんですが、今後、今、支援してくださる方は町の一般財源から出てると思うんですけど、4月以降こういうものを進めるために、やっぱり人材育成とかいろんなところに費用がかかってくると思うんですが、これについて国なりの有利な補助とかそういうことについてのお考えはあるんでしょうか、必要なんですけど。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 議員さんおっしゃるとおりです。デジタル化を進めるに当たって、全てっていうか、多くを一般財源でっていうのはなかなかハードをそろえる、ソフトもそろえる、かなりのお金になります。やはり有利な財源を求めて国、県、いろいろなところから情報を取らないといけないと思ってます。

そういった中で、ちょっと1つ気になったことがあったんですけども、どうもうちの町、解消できるのかなと。デジタルの交付金が総務省さんが持つとられる、それが、マイナンバーカードの取得率が悪いところは手さえ挙げさせないよっていうような、そういうようなお話がちょっとちまたに流れたんですけども、昨日ぐらいの新聞か何か情報で、11月末のマイナンバーカ

ード申請率、これが全国平均で53.9%、それ以上であればそういう制約なく手を挙げていただいていいですよ。たしか国予算が2,000億ぐらいだったと思いますけれども、うちの町は、申請率はちょっと今、承知しておりませんが、申請したうちの取得率がもう53.9%ですので、そういうデジタル化を進める予算、そういったものにも向かっていく、そういったことで有利な財源を求めてまいりたいと思います。

○議長（小谷 博徳君） 4番、松尾信孝議員。

○議員（4番 松尾 信孝君） 次に考える課題は、もう少し広域で考えるテーマもあるんじゃないかと。つまり、人口減少してるわけですね、一方で受益者の人数は減ってきてるわけです。そう考えると、近隣町村で同じような課題を抱えてるところで、これを広域的に考えて、例えば人材育成だってそうですよね。これ日野町だけでこれだけの予算でやるっていうよりは、例えば日野郡3町が合わせてこれだけ予算で人材育成するとか、そういう方式も非常に効率的じゃないかと思うんですけど、この辺について町長どうお考えですか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 事、デジタル化だけではないんですけど、近隣のとか、一定の大きさの単位でやれることはやったらいんじゃないかっていう、まさにそのとおりだと思います。日野郡連携会議の中でも、このデジタル化が進む、進めないといけないっていうときに、たしか連携会議の中で講演会っていうか勉強会をさせていただいたりもしましたし、また、行政のデジタル化っていうことになると、それぞれの町がそれぞれの様式で、それぞれシステムを構築するようなことはなかなか、どういうんですか、お金もかかる、できるだけ様式とか書式を統一して、要はまさに議員さんおっしゃられた、どっかの町が災害があつて行政事務ができなくなったときに、隣の町がその町と同じ手続、様式とかデータ処理をしてるのであれば、ちょっとお手伝いしていただける、そういうようなこともデジタル化の中ではありますので、そういう面でそういうものも、今、西部の広域の自治体で検討したりしてますし、国レベルでも一定の様式を整える、フォーマット整える、そういったことで、どういうんですか、特徴のある取組もあつてもいいんですけど、ベースの部分はちゃんと一緒にやっついこうっていうようなそういう思想があるっていうふうに私は認識してます。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 4番、松尾信孝議員。

○議員（4番 松尾 信孝君） それ、ぜひ本当に実現に向けて協議をしていただきたいと思います。

さっき、いろんなアプリケーションのところで申し忘れたんですけど、今も関連する課題とし

て、いわゆる議会に配付される書類も説明書類も含めて、これを、これは簡単だと思うんですけど、PDFとかなんとかそういうふうにデジタル化することによって、実はさっきもこの推進本部の書類を探すのにちょっと苦労したんですけど、こういうものもデジタル化して、こういう全協なりの資料っていうものをデジタル化して配付していただければ、もしくは、少なくとも保存されていれば、まず検索が可能になってくるわけだと思うんですよね。それと、もちろんストレージのスペースも整備できるし、災害があったときに水浸しになってもそういったデータが残るとか、その辺のことについて書類なりの役場内でのデジタル化、ペーパーレス化っていうことについてどういうふうに今、お考えなんでしょうか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 前提条件がちょっとよく分かんないんですけども、文書管理のルールで永久保存、10年保存、5年保存がある。それを今の議員さんは、全部データベース化にして残すべきじゃないかっていうようなお話ですけど、ちょっとそれは置いといて、例えば永久保存のものとか10年保存のもの、5年保存、ずっと残すんじゃない、年限はこうなんだけども紙ベースからこちらに、要はアナログからデジタル化して、どういうんですか、容積を減らすとか紙の消費量を減らす、ひょっとしたらCO₂削減っていうような、そういうようなことも考えていくべきじゃないかっていうお話だと思います。そういったことも実際、今うちの役場は紙ベースが中心、電子決裁とか入りましたけども結構紙が多くて、書庫とか倉庫いっぱいですので、そういった取組、一生懸命進めていかないといけないというふうに思います。

○議長（小谷 博徳君） 4番、松尾信孝議員。

○議員（4番 松尾 信孝君） 最後に、若干、今の質問とも関連するんですけど、議会がじゃあどうやって、どうこのDX化に関わればいいのかという問題ですけど、何かで読んだんです、政府の調査では、この自治体DXの中で一番遅れてるのは議会のDXだというふうに書いてありました。確かに、私が議員になってから今までの間ほとんど、通知がメールで来るようになったぐらい以外はあんまりDXが進んでなかったんです。これ、やっぱり理由の一つは、議会に対してDXっていうのはどういうものなのか、どういうメリットが出てくるんだということについて、もちろん議会と執行部という権限の違いとかそういうことは別にして、行政の事務上って進め方で、どれだけ議会にとってメリットがあるんだっていう説明がやっぱりなかったんですよ。これは、やっぱり我々議会に対して、なぜかといいますと、多分恐らく次の予算の中にもDX関連のものが幾つか入ってくると思うんです。我々議会が、その予算がちゃんとやっぱりこの自治体DXを進める上で必要なもんなんだということを理解するためにも、議会に対して自治体DXとは

どういふもんだということを改めて御説明いただきたいような気がするんですけど、そこら辺についてどう思われますか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 本問のほうでお答えしましたけども、DXを進めていくためには議会、さらには議員の皆様と議論を重ね、御理解をいただきながらっていうようなことでお話をさせていただきました。より具体的にDXの進め方とか必要性、そういったものについてももっともっと、どういふんですか、一緒になって勉強しようやっていうようなお話のように。

○議員（4番 松尾 信孝君） 教えてもらいたいです。

○町長（埴田 淳一君） 伺いました。ぜひ、そういうふうなふうに、どういふんですか、我々もまだ勉強していかないといけない途上でございますので、一緒になって勉強できればすごくありがたいなと思います。

○議長（小谷 博徳君） 4番、松尾議員。

○議員（4番 松尾 信孝君） この自治体DXっていうのを勉強する中で、本当にやっぱり我々議会も、議員として自分自身の身を切るような覚悟で勉強してやっていかなければ、言ってみれば役場業務の一つを議会も占めてるわけですから、ガラパゴスにならないためにもこれは議会にも必要だと思うんですね。

最後に、もう一度っていいいますか、これやっぱり進めていくには町長の……。

○議長（小谷 博徳君） 時間が来ましたので、端的に。

○議員（4番 松尾 信孝君） 町長のリーダーシップが必要だと思うんですね。そのところ、町長のこの自治体DXの推進に当たって、町長のリーダーシップの発揮を改めて再度、もう一回町長のお気持ちをお聞かせください。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 本問のほうでもと先ほどまでも言ってますけど、これはもう決して避けて通ることのできない変革でございますので、これ住民の方と一緒に進めてまいりたいと思います。

参考までに、全国の町村会が令和4年の5月に町村のDX推進十箇条っていうのを出しとりまして、その一番初めに、町長・村長のリーダーシップと対話で変革する、あと2番目に、職員の変革意識、みんなが進める、3つ目に、日々の改善・創意工夫を凝らす、そういったものが10か条ございます。そういうことを御紹介しまして、決意っていうか意識の表明をしたいと思いません。以上です。

○議員（4番 松尾 信孝君） 終わります。

○議長（小谷 博徳君） 4番、松尾信孝議員の一般質問が終わりました。

○議長（小谷 博徳君） 次に、5番、中原信男議員の一般質問を許します。

5番、中原信男議員。

○議員（5番 中原 信男君） 質問する前に、今の聞いとして町長、姿勢がいいもんだからマイクとの距離がちょっと離れてますので、私とのやり取りのときもう少しマイクに近づけて答弁してください。

質問に入ります。私は、今回2つの事項について質問をいたします。答弁のほうよろしく願いをいたします。

質問事項1点目ではありますが、森林環境譲与税の運用について伺います。質問の趣旨、背景がありますが、令和元年度より国から森林環境譲与税が地方自治体に予算措置され、日野町にも毎年交付されています。この譲与税を財源として、今まで以上に町の森林行政の拡大及び推進を図る必要があると思います。そのために、何が必要で、どのような方向性を描くのか検討し、森林事業の活性化と適切な森林保全の確保など、将来に向けた取組を進めるべく質問をいたします。具体的に回答を求める事項は、1つ、森林計画の策定はどうなっていますか伺います。2つ目、森林従事者の育成及び人材確保について、どのような考えを持っているのか伺います。

2点目の質問事項です。電気自動車、EVの充電施設について質問をいたします。趣旨、背景です。国の方針でもある地球温暖化対策、エネルギー、環境問題等、電気自動車は、今後少しずつではありますが普及していくと思われれます。日野町には、電気自動車の充電施設が1か所もありません。今後の社会状況を踏まえ、どう考えているのか伺います。具体的に回答を求める事項は、率直に施設を設置する考えがあるのかないのか、それとも設置できないのか質問をいたします。

以上について町長の答弁を求めたいと思います。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 5番、中原議員さんからの御質問にお答えいたします。

まず初めに、森林計画の策定状況についてのお尋ねでございます。日野町森林整備計画を基に、鳥取県策定のとっとり森林・林業振興ビジョンや、鳥取日野森林組合策定の鳥取日野森林組合ビジョン2030とも整合性を図りながら、今年度中には林業、木材産業の再生と雇用への貢献、森林資源の有効活用をしていくための指針となる日野町森林林業振興ビジョン、仮称ではござい

ますが策定したいと考えております。

次に、林業従事者の育成及び人材確保について、どのような考え方を持っているかについてのお尋ねでございます。持続的な林業経営を実現する上で、伐採や造林の現場を支える林業従事者の確保は重要でございます。本町の林業事業体においても、森林環境譲与税の主な用途となる新たな森林管理制度の推進に伴う事業量の増加が見込まれる中、深刻な人材不足にあり、人材の確保は喫緊の課題であると認識しております。特に、植栽から保育、伐採までの作業を担う労働者の不足が顕著となっており、その主な要因として経験や能力が反映されない林業労働者の所得の状況や、他産業と比べて極めて高い水準にある労働災害の発生状況が考えられます。これらの課題や改善について、県、町、町内の林業事業体が連携したスマート林業の推進などの新たな取組を行い、低コストで効率的な木材生産の実現を目指すことを確認しているところでございます。このような状況の中、町といたしましては、林業労働者の就労条件改善を図るための林業労働者福祉向上推進事業、さらには、日南町林業アカデミー卒業後の担い手を育成、確保するための日野町林業従事者雇用促進給付金事業、さらには林業事業体の効率化、省力化を図るためのスマート林業推進事業に取り組んでおります。また、本年度、新たな取組としまして、森づくりを担う人材を確保するための森林インターンシップ事業を開始したところでございます。いずれにいたしましても、今後も町内林業事業体と連携しながら、本町の未来の森づくりを担う人材の確保、育成を図ってまいりたいと思います。

次に、電気自動車の充電整備についてのお尋ねでございます。地球温暖化対策は、世界全体で取り組むべき課題であり、日野町としても取組を進めていかななくてはなりません。また、県の資料によりますと、国道181号周辺は充電環境の整備が遅れている地域でもあり、充電インフラの充実が必要であると考えます。どういう形であるかということでございますが、EVを保有する方は充電するタイミングといたしますのは、恐らく日常であるなら、やはり自宅で充電されるということだと思いますので、行政が整備するとすれば、長距離をお出かけになる際の経路や目的地に設置するほうが有効であろうと思います。以上の観点から、今後、設置場所について検討し、対応してまいりたいと思います。以上でございます。

○議長（小谷 博徳君） 5番、中原信男議員。

○議員（5番 中原 信男君） 2点につきまして、町長のほうから答弁をいただきました。その答弁を受けて質問をするわけですが、まず最初に、私は町長の意識というものを確認をしておきたいんです、この場で。といいますのも、思い出していただきたいんですが、町長は町長選に出られたときと、私が記憶するのに間違っておったら町長、否定してください、私も訂正しますの

で、私の記憶の限り言いますから。1期目の施政方針のときの林業施策で、こう言われたんです。地元産を活用した二次製品的な加工及び製品化をして、ある意味六次産業化も考えながら町の林業を活性化していくんだと、こういう強い気持ちを言われたように私は記憶しとるんです。それで、私は、これは日野町の林業は変わっていくなという感覚を持ちました、ある意味。しかしながら、残念ながら、ある意味そう拡大的に何が変わったかということはまだ見えてきません。そのときの気持ちが今現在もそういう気持ちでおられるのかおられないのかということ、最初確認さしてください、質問さしてください。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 一次産業である林業を二次産業化、三次産業化して、要は生産物の付加価値を高めていくっていうことが必要じゃないか、これは私の、どういうんですか、経験則からも基本的にはそういう考え方を今も持っております。ただ、そうはいってもなかなか、これもそれ以降の議会でいろいろ議員の方から御質問があつて、例えば製材工場を造るべきじゃないかとかいろんなございました。例えば製材工場ですと、本当に私の経験から言って、製材機、それから今は乾燥機ってというのが、木材乾燥をするための機械、これはもう必須であります。本当に大きなお金が要ります。そうすると、やはり出口、どういう加工をするのか、どういう相手に売っていくのかとか、やっぱりいろんなことも考えて総合的にしないといけない。そのとき使った言葉は、木材産業、装置産業で非常に大きな投資が要るんで、やはり、どういうんですか、すぐすぐにはできないっていうか、そういうようなお話もさせていただいたと思います。このコロナの中でウッドショックっていう、船とかコンテナが足りない、さらには欧米での木材の運送がコロナで港湾労働者であったり伐採労働者がコロナでちょっと、どういうんですか、少なくなってってということで、木材、原木の価格がちょっと上がりましたが、やはり加工するっていうことで付加価値を生み出していかないといけないってというのは、私、頭の中に思っておりますし、そういうことでないといけないと思っております。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 5番、中原信男議員。

○議員（5番 中原 信男君） 私はなぜ最初にそういうことを伺ったかというのは、この森林環境譲与税が返ってくる、令和元年度から入ってきた、これ町長にとってもチャンスだと私は思うんですよ、これだけのお金が入ってくるというのは。最初に確認をさせていただいたんですけども、お気持ちの面ではそういう考えもあるというところは伺いました。実際に譲与税がどれぐらい入ってきたのか、今後どれぐらい入るのかということ、ちょっと知っておいてもらいたいんですけども、多分、町長は知っておられると思う。ただ、ここで議論する中で、皆さんの中も把握しても

らいたいから、あえて数字を出します、いいですか。令和元年度から令和3年度までにおおむね6,000万ちょっと。それで、今年度が3,050万。それで、令和5年度が同じく3,050万。それから令和6年度から10年度にかけて3,750万。結局、4年から10年までの7年間で2億5,000万ぐらい入るんですよ。何が言いたいかというと、令和1年から令和3年までの間に6,000万入ってきたものが、今、森林基金で3,000万残ってます。これから2億5,000万入ってきます、何年かかけて。これ、2億5,000万が入ってくるような、国からですよ、お金を基金で積み立てていっていいものかどうかということなんです、私は駄目だと思いますよ。国から入ってきた意味は、理由があって交付されとるわけだから、それをやると時間がないからやめますけども、言いたいのは、基金に積み立てるばかりが能じゃなくて、それを使うことの必要性を町長はお持ちかどうかで、今後、大きな森林計画があれば、予定があれば基金に残してもいいですよ、はっきり言いますけど。その辺の認識はいかがですか、町長。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 森林環境税、その前段の森林環境譲与税の使途ということでのお尋ねでございます。これも全国レベルでいろんな話がございます。基金に積み立てて、塩漬けになってるようなところもあるんじゃないかと、あと周辺状況としたら、森林面積に応じた配分じゃなくて、かなり人口の多い少ないも加味されての配分なんで、ちょっとその辺も制度設計を見直すべきじゃないか、いろんな面で会計検査院も何か使っていないねっていうようなお話もあるんですけど、そういったことが生じた私の一つの大きな原因は、これは国の指導のほうで、どういんですか、既存の事業、制度っていうか、そういったものへの上乘せとかそういうような使い方はするな、これは指導っていうか技術的助言なのかもしれませんけど、かなりそれが強くございました。だから、なかなか現場としては使いにくいっていうか、事業化しにくいっていう部分もございましたけど、何かその辺が少し氷山が解けるような形で、緩くルーズになってきていると思います。そういった面も併せて、今後ビジョンを立てていくわけですけども、具体的なそのビジョンを実現するための施策、そういったものに使わせていただきたい思います。そもそも……。

○議員（5番 中原 信男君） いや、計画があるかないかかって、大きな計画が。

○町長（埴田 淳一君） 今、たまってるものを一遍に使う計画があるかないかかっていうことについては、具体……。

○議員（5番 中原 信男君） いや、一遍に使えじゃないよ。

○町長（埴田 淳一君） 具体的に……。

○議長（小谷 博徳君） 町長、この税金を今後どう使うかということの質問なので、そこについて。

○町長（埜田 淳一君） どういうんですか、計画的にっていうか、必要なものに使っていくっていう以外にはないと思うんですけど。（「真面目に答えてよ」と呼ぶ者あり）またまたためていくっていうようなことではなくて、どういうんですか、かなり必要なところ、使えるところには使わせていただいている、オシドリ観察小屋であったり、道とか、そういうようないろんなもの、人材の確保にも使わせていただいている、それが規模が小さ過ぎるんじゃないかっていう話はひょっとしてあるかもしれませんがけれども、いろんな使い方をさせていただいてますし、また今後、林業関係の事業体さんとか、単町もあるかもしれませんが、森林整備を進める、要はCO₂削減、そういったもの、環境税ですのですね、森林の環境をよくしていく、地球温暖化を防止するためにもっとこれをせんといけん、そのための基盤整備をしないといけない、そういったことに使っていきたいと思いますし、使うべきだと思っております。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 5番、中原信男議員。

○議員（5番 中原 信男君） 町長、最後に言った一言が正解なんです。いや、本当に。国の譲与税の交付目的は、温暖化だとかそういうのを目的に入ってるんですよ。私が聞いたかったのはね、町長、残していったら国が、増額していこうとする考えの中で、使っていない自治体には交付する必要ないじゃないかという雰囲気生まれたら困るんです、せつかくのお金だから。だから、ためていくことはやぶさかでないけども、将来的に大きな、壮大な計画がありますかかって聞いたのはそこなんです。そういうのがあれば、残して、一気に使いましょうよで議会も認めてくれると思いますよ、我々も認めるし。そういうことなんです。その議論をしとるともうあれですから、そういう質問の趣旨でした。

計画のことについて伺います。答弁で、今年度中に作成するというのを言われました。実を言うと、町長、去年、1年前、同僚議員がこの森林計画のことを、同じような、内容は多分違ってたけど、質問されたんです。そのときに町長は年度内にやりますということ言われたので、そのときにやっておれば私はこういう質問をしません。そのときの課長は替わってますけども、あんとき口開けてましたよ、ぼかあつと。今年度中にやりますということ言われたもんだから、ええっというように。今回は間違いありませんか。今年度中に森林計画を出しますか。

○議長（小谷 博徳君） 埜田町長。

○町長（埜田 淳一君） 今議員がおっしゃいましたように、他の議員さんからの御質問で、そういうものが必要じゃないか、そのときの答弁で、その年度のうちにはっていうようなお話をさせてもらって、ちょっと私、産業振興課長のほうは当時見えません、今も見えないんですけれども、口が開いてたかどうかはちょっと分からないんですけれども、その後、また議員さんのほうから

御質問があつて、いつまでにつくるんだつて。そのとき、今年度内にはつて。本当に大丈夫かつてというような激励もいただいたんですけれども、今、今年度末、3月を目指して、どういうんですか、作成するつていう強い決意を持ってますし、今回は産業振興課長も口を開けるようなことはないと思います。以上です。

○議員（5番 中原 信男君） 分かりました。

○議長（小谷 博徳君） 5番、中原信男議員。

○議員（5番 中原 信男君） 町長、確認しました。その計画の中身について、3月までにできるんだろうけども、ちょっと質問したいんですが、今はやりのね、町長、循環型林業というような言葉がはやつてゐるみたいで、これ簡単に言うと、使う、植林をする、育てる、また使う、これが循環。そういう趣旨のことを、もう当たり前のことなだけども、文言として入れていって推進していくんですよということが頭の中にあるのか、それと、バイオマスという、これも大分前から言われてますよね、発電だとか、熱だとか、どうのこうの、廃材がそういう活用をできる、無駄にならない、それこそ地球環境の保全なり森林保全に当てはまる、そういうところをこの森林計画の策定の中に入れる考えはありませんか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） どういうんですか、森林の整備、環境保全税にもかなり通じる部分があるんですけれども、カーボンニュートラルであつたり、炭素をためる、それは例えば今、CLTつていう大きな部材で、都市の森林化つてというような言い方で、もう建物を木材でやつて、木材がためてる、Cをためるつていうんですか、そういうようなこともしていく、そういった中で、循環させないとCO₂、どういうんですか、たまりませんので、循環つていう、どういうんですか、用語、さらにはバイオマス、これは非常に魅力的なものだと思います。生物資源、だから、これをどういふような形で利用するのか、これは日進月歩で、燃やすだけじゃなくつて、発酵させたり、繊維に、さらに、パルプじゃなく、紙じゃなくつて、いろんな、接着剤にも使える、リグニンのほう、そういった研究もございますので、やはりバイオマスつていうことも一つ着目点だと思います。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 5番、中原信男議員。

○議員（5番 中原 信男君） 町長、今の答弁で、考えてみていただけるような雰囲気でしたので、ちょっと検討してみてください。

それで、次に、森林計画の中で、私はこれは正しいのか正しくないのか自分でもちょっと若干分からんところがあるんだけど、町有林ばかりに着目するんでなくてね、町長、やはりこの森林

行政を進めていく中で、個人の山林所有者の活力というか、やる気、これを喚起していかないと日野町の林業全体の雰囲気は上がらないと私は思うんだけど、個人者にこの譲与税の中から補助するんだというような税金の使い方は好ましくないと思うので、適切かどうかは、不適切だろうけど、そういう意味の補助でなくて、木を切り出したりするときに、路網の整備とか、そういう何か、個人にお力になることができないかというところ、町として。そこら辺もこの計画の中に組み込んでいただければ、個人の所有者はやる気を出すと思うんです。今の状況なら、山で木を切っても何にもならんわと、もうほっとけという、何か気持ちが萎えるような雰囲気になる。そうじゃないんですよというところを、この譲与税の中から何とかならんかなという思いがあるんですけど、個人所有者についての考え、ちょっと町長、聞かせてくださいよ。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 議員おっしゃられるとおりの部分が随分あると思います。何点かおっしゃいました、町有林一生懸命やってるけど、周辺の山主さんはっていうお話で、これは、どういんですか、関係の、例えば国有林さんが来られたり、いわゆる水資源機構さんとかが来られたときにも言うんですけれども、一緒にやりませんか、今年の日野町、町有林やる、その隣は5年後にやるっていうんじゃなくて、一緒にやると。要は、数の、規模のメリットっていうのがあって、道も一緒につけて、どういんですか、経費の負担も軽くなるとか、いろんなメリットがあると思いますので、そういったことも関係者にお話をさせていただいてるところであります。

そして、個人の森林整備を進めるために環境譲与税とか環境保全税、最初考えたんですよ。県の制度、それから、町も上乘せしてる間伐材の搬出、そのさらなるかさ上げみたいな、それはもう、最初の制度のときに、既存の制度の上乗せは駄目ですよって言われて、ちょっとくちやつとなってしまうんですけれども、いろんなことを考えてます。恐らく新しいビジョンでも、やはり森林整備を進めていくっていう上では、いわゆる手段としての路網であったり、路網ができないところでの整備をどうしていくかっていう、架線集材とか、そういう大きな架線集材ができる機械とかいうようなこともあるかもしれませんが、そういったものを進めないと森林整備は進まないっていう、そういう基本的な観点を持って施策として取り組むようなものが出てくると思います。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 5番、中原信男議員。

○議員（5番 中原 信男君） そういう観点から、町長、ちょっと本当に検討してみてください、個人所有者に対する考えを。

それで、この計画の中で、最後にちょっと指摘という、まずは質問したいんですが、もう今後、

やはり植林というか、切ってから植える植林の考え方として、やはり私は、杉、ヒノキに特化した凝り固まった考え方でなくて、広葉樹であったり、今はやりの、何か、あれ何の木だったかな、ヒノキじゃなしに、キリの木かな、成長の早いような木が今あるらしいんですよ、研究で。そういうことも考えてみたらどうですかという質問なんですけど、町長、いかがですか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 森林を伐採した後に、今の杉、ヒノキを同じように更新していくんじゃないかって、もっと違った観点で、先ほど言われたのは成長の早いコウヨウザンっていう樹種だと思えますし、あと広葉樹についても進めるべきじゃないかっていうお話でございます。

そういう観点、持たないといけない思います。要は用途です。杉やヒノキが何で植えられたかっていうと、日本の文化の、どういうんですか、に合ったもの、だから杉やヒノキっていうことでほとんどいきましたけど、今、利用は、成長が早くてボリュームが多いもの、要はバイオマスで利用するようなもの、強度が弱くなっても、いろんな加工でとか、圧縮とかそういうので強度つけることができますので、いろんな研究がされてます。そういった中で、地域に合った樹種っていうような大きな視点の中で検討していただきますようお願いしたいなと思います、実際に植えられる方に。

○議長（小谷 博徳君） 5番、中原信男議員。

○議員（5番 中原 信男君） 森林計画についての質問はこれでやめますが、次の人材育成について、町長、実はこの問題が一番、日野町の林業のあれでは課題だと私は思うんです、人材育成。それは何かというと、現場でやっていただける従事者、もう一つは、やはりこういう事業なりを推進していくための職員の体制、これが全く私は大変なことだと思いますよ。ですから、日南のアカデミーなり鳥取日野森林組合さんなり、ここらと協調をして人材を確保をしていく、あるいは町の職員でも、会計年度任用職員であろうが何であろうが、正職以外にそうやって1人でも2人でも職員を置いて、こんだけの予算が入ってくることを推進していくという考えを町長自身が持っていたかかないと、前に進まないと思うんですけど、今の体制では、職員に対しては。1人ではかわいそうだと思う。課長がしっかりやっても、そういう事業を発案したり、いろんな作業をして推進してく、そういう考えを町長が持っていたかかないと前に進まないと思うんですけども、いかがですか、町長。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 事、人材の確保、これは現場の人材、いわゆる林業従事者、事業体で活躍していただける方、そういったものが不足してるのは本問のほうで申しました。これの、どう

いうんですか、確保、拡充、それぞれの事業体さんも取り組んでいただけてますし、また、町のほうとしても支援をしていくっていうスタンスでございます。

あと、庁舎内の林業の関係のスタッフ充実っていうことでございますけれども、限られた人材の中を有効活用していくっていうのがまず第一かなと思います。そんなには大きな、申し訳ないんですけど、事業量ではない。むしろそういうときに、どういうんですか、行政は行政、事業体は事業体、何とかは何とかっていう縦割りじゃなくって、横の連携とか、いろいろ情報共有をしていく、そういった中で、どういうんですか、よりよい方向、よりよい、どういうんですか、業務ができると思いますので、今々人材を増やすとか、そういうようなことは今、考えておりません。

○議長（小谷 博徳君） 5番、中原信男議員。

○議員（5番 中原 信男君） 人材確保に関しては、町も積極的に支援をしていくという答弁がありました。ちょっと私、気に入らないのは、町長、大した事業量の額ではないと言われたけど、それならどんどんやって、基金に積み立てることなく推進してくださいよ。私はそういうことを懸念してるからこうやって質問をしとるわけであって、大した金額、量ではないっていうことはないと思いますよ。それはちょっと私はおかしいと思う。それならどんどんやるべきだ。いかがですか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 先ほど、一番最初に議員さんがおっしゃいました、年間、譲与税が3,000万から4,000万近く、4,000万ですね、例えば4,000万ですと、金額は確かに少なくないっていう見方ができますけれども、林道150メートル、200メートル造れんなって、ちょっとそういうような形に私の頭の中で変えてますので、そんなに大きな事業が一遍にはできないな、1人、もしくは1.5人ぐらいの職員で十分対応できる事業量かなっていうふうに考えます、私の経験からは。

○議長（小谷 博徳君） 5番、中原信男議員。

○議員（5番 中原 信男君） 今の答弁は、私はあまり納得するような答弁ではありませんけども、町長がそういう考えでおるならば、それを否定するわけにはいきません。ただし、質問をしますけども、そういう発言をされた以上は、これからの10年間、7年間で入ってくるお金を満遍なく地域に還元して、活性化できるようにやってくださいよ。それだけを言っておきます。

2つ目の質問のことについて、重ねて質問をさしてください。電気自動車の充電施設についてです。この質問は、私、自分が初めての質問かなと思ったら、事務局のほうと調整して調べ

てみたら、同僚議員が2年前にやっとなんです。これは、再生可能エネルギーに関する質問でこのことが出とって、そのときに町長はこう答弁されてるの。その議員からの質問に対して、考えますと。その議員さんの質問は、リバーサイドひのにどうでしょうかという質問でやったら、町長は、考えますと、本問のほうで答えたとおり、どうですこうですっていうことを言われとるの。私の質問で、今後、設置場所についての検討、対応してまいりたいと思いますということですので、前向きな答弁だろうなと思うんですが、具体的に私は場所を言いますけども、私も、やはり金持テラスひのとか、金持神社とか、金持テラスひのは何で言うかという、答弁であったように、遠くから来られた方がそういうことになったら必要じゃないのかなと思うので言ったんだけど、そういう考え方でいいですか、町長。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 議員が御指摘になりました、私もちょっと思い出しました。充電器の検討を、リバーサイドが例だったかもしれませんが……。

○議員（5番 中原 信男君） 2年前にやっとな。

○町長（埴田 淳一君） 2年前ですね。そのときに恐らく、県のほうでもこの西部に少ない、それで、日野の振興センター、そのときは日野総合事務所だったかもしれませんが、検討して、日野の総合事務所かどっかに、金持神社の、県の除雪機の駐車場、ああいうところに置きたい、そういう支援の財団があったと思います。それに手を挙げたんだけど、落選したんですよというような、そういうエピソードもお話ししたと思います。

先ほども、本問でも申しましたけども、やはり利用形態、どのような形態なのか、目的地に置くことが有効なんじゃないか、さらには、国道筋、そういったところがいいんじゃないかということを考えますので、議員御提案の札所の近くであったり、テラスのそこ、それはすごくそういう考え方にマッチしてるっていうふうに感じております。

○議長（小谷 博徳君） 5番、中原信男議員。

○議員（5番 中原 信男君） 町長、ちなみに、江府町さんには2か所あるんです。道の駅とローソン、それに日南町、これ多いです。5か所あります。役場、道の駅、上石見の駅、ゆきんこ村、ホームランド多里、そういう近隣の状況あったので、うちの町には1か所もないので、こういう質問さしていただきましたし、こういう答弁をいただきました。

次に、この件に関して質問します。今度公用車を仮に買い換えるときに、古くなった公用車を、今すぐとは言いません、公用車を購入する機会があったら、町として、電気自動車を1台でも買うような考えはありますか。

○議長（小谷 博徳君） 埜田町長。

○町長（埜田 淳一君） 私としては、すごく電気自動車に興味があります。過日、黒坂駅の100周年記念のときに地元事業者さんが、メーカー名言っているんですね、メーカー名言わずに、サクラっていう軽自動車タイプの電気自動車を持ってきておられて、いろいろ説明を受けました。ただ、来られてた住民の方とか町外の方、その横のジープタイプのほうに結構いろいろ説明を求められて、納車が2年以上かかるよっていう車だっているお話もあったんですけど、なかなか電気自動車のほうに目が向いてないってような御説明を事業者さんからいただきました。その際、ちょっとうんって思ったのは、いわゆる公称、その車は、バッテリーをフル充電して150か、200走れない。ただ、それはあくまでも、どういうんですか、一定のテストコースで、100ちょっとぐらいしか走れんなっていうので、どういうんですか、走行距離がちょっと物足りないかなっていう面はございますけれども、あと、価格もちょっと高い。国等が支援してるってようなこともありますけれども、関心はございますけど、まだ具体的な検討っていうことはしておりません。ちょっと関心を持ってまいりたいと思います。

○議長（小谷 博徳君） 5番、中原信男議員。

○議員（5番 中原 信男君） 町長、関心を持ったほうがいいと思いますよ。やはり自治体というか、国の政策がそういうふうに向いてる以上は、各自治体なり地方公共団体がやはりそういう姿勢を見せないと。だから、200キロ走れんかも分からんけども、私は役場職員の、例えば健康福祉課の職員が町内を回るときに、おじいさん、おばあさんのところに行くのにそういう電気自動車で優しく行ってあげたら、ああ、音がしなかったねとか、これは仮の話ですけど、そういうこともあるだろうと思うので、何せ、やはり自治体がそういう姿勢を見せる、そうすると個人にも波及していくということですので、そこは研究されたほうがいいと思います。

最後に1つだけ聞かせてください。質問しながらこういうことを聞くのもなんですが。

充電施設を設置したときに、維持管理があって、点検だとかそういうのが大変らしいんです、実を言うと、メンテナンス。これを国や県から、町長、一般財源でなくて、そういう補助があるかないかだけ教えてください。

○議長（小谷 博徳君） 埜田町長。

○町長（埜田 淳一君） 今、本問のほうの御質問のときにいろいろちょっと調べてまいりました、充電とか、充電インフラの整備のためにどういう補助制度があるかっていうことで、これは経済産業省さん、資源エネルギー庁さんのなんですけども、その中で、整備事業であるものについては、定額であるとか、2分の1の補助っていう制度がございます。維持管理のほうについては、

記載がございませんので、私の普通の感覚ですと、ランニングコストは補助制度はあまりつくりにくいっていうか、ないんじゃないかなと思いますけど、ちょっとその辺、担当課長のほうから、もうちょっと違う情報があるかもしれませんので、補足させます。

○議長（小谷 博徳君） 神崎企画政策課長。

○企画政策課長（神崎 猛君） 補足というか、大体お話しする内容、町長と同じ内容でございます。

経済産業省のクリーンエネルギー自動車導入促進補助金というものがございまして、大体、機械の設備に250万円上限で2分の1の補助、それから、工事費についてはたしか140万円で、これは100%の補助というのがあったと思います。それで、これはあくまでイニシャル部分、導入費用についての助成でございます。それで、ランニングはやはり補助金はないというようなことで、若干これに関して補足をしますと、以前官公庁が設置したものは無料で使っていたというものが多かったんですけども、最近はこちらかというところある程度有料化をしていくというような方向で、どちらの自治体のほうもそちらのほうにシフトをしつつあるというようなことのようにございます。

説明は以上です。

○議長（小谷 博徳君） 5番、中原信男議員。

○議員（5番 中原 信男君） 2点、今日質問をさせていただきました。森林環境譲与税、この推進、それと電気自動車、充電施設、町のためになると思いますので、よろしく願いをしたいと思っております。

質問を終わります。

○議長（小谷 博徳君） 以上で午前の一般質問を終了いたします。

ここで休憩をいたします。再開は、午後1時15分といたします。

午前 11時45分休憩

午後 1時15分再開

○議長（小谷 博徳君） 再開いたします。

午前に引き続き、一般質問を行います。

6番、松本利秋議員の一般質問を許します。

6番、松本利秋議員。

○議員（6番 松本 利秋君） それでは、午後の部、よろしくお願いいたします。

私は2つ、将来のまちづくりについて、町の活性化について伺いたいと思います。まず、将来のまちづくりについてでございますけれども、町内全域を回ってみますと、空き家が目立ち、道路脇の草も生い茂る状態が見受けられます。このことが、さきの国勢調査、2020年でございますけれども、からも読み解くことができます。いわゆる少子・高齢・過疎化の進行であります。日野町創生戦略の理念に、生きがいを持って安全で安心して暮らせるまちづくりと記されていますが、推進するための施策を伺いたいと思います。

まず1点、町は、将来の人口をどう推計されていますでしょうか。

2点目、特に高齢化が進んでおり、安心・安全に暮らせるまちづくりをどのように推進されますでしょうか。

3点目、集落機能を維持するためには、コミュニティーの充実が欠かせません。どのように取り組まれるでしょうか。

次に、町の活性化についてでございます。日野町の名所・観光地で、全国からお客さんが多く来られる金持神社、オシドリ、明地峠の雲海、たたら、また、伯備線沿線にも写真撮影に多くお越しでございます。日野町にお越しの観光客など、その場所のみでなく、町内各方面にも来ていただき、町の活性化に結びつけることが大切と考えます。

そこで1つ、町に来られる観光客などをどのように町の活性化に結びつけようとしておられますでしょうか。

2つ、町に来ていただくには、廃校となる学校などを活用して、町などが所有している文化・美術関係の整備・活用も必要と思います。お考えをお伺いいたします。

3点、旧山陰合同銀行の利活用について、耐震診断後、どのように検討され、進められようとしておられますか、お伺いいたします。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 6番、松本議員さんからの御質問にお答えいたします。

まず初めに、将来の人口推計についてのお尋ねでございます。令和2年の国勢調査と人口ビジョンを比較しますと、国立社会保障・人口問題研究所、いわゆる社人研ですが、こちらの推計が2,837人、町独自の推計が2,849人と推計しておりましたが、国勢調査の結果では2,907人と、社人研に対しプラス70人、町の推計ではプラス58人と、減少幅は緩やかに進んでおります。10年後では、国勢調査を基にした中山間地域研究センターの推計2,260人に対して、町が第2次きらり日野町創生戦略策定時に推計した2,121人でしたので、減少幅は

緩やかになるものと推計されております。ただ、問題は、20歳から60歳の定住人口の流出でございます。分析して対応を検討しないといけないと思います。若い関係人口を確保し、将来的な定住につなげるような施策を進めるなど、粘り強く取り組んでまいりたいと思います。

次に、2番目の安心・安全に暮らすまちづくりの推進についてのお尋ねでございます。日野町では、今年度から新たに集落リノベーション取組を始めております。これは、住み慣れた場所で楽しく元気で安心して暮らし続けることができる、支え合いの暮らしの仕組みをつくっていくものでございます。例を挙げますと、真住地区では補助事業で除雪の支援を行うなど、住民自ら安心・安全な地域づくりを始めておられます。また、移動販売に見守りと併せて新たな機能として、高齢者の困り事を支援する高齢者暮らしの支援業務を併せて実施し、安心づくりを進めてるところでございます。

次に、集落機能の維持とコミュニティーの充実についてのお尋ねでございます。人口減少で、個々の集落では機能維持ができなくなるため、複数の集落が一体となって地域を支える小さな拠点づくりと、集落を元気にする集落リノベーションの両面から、集落機能の維持とコミュニティーのつながりの強化をしていく取組を進めております。今年度、菅福地区では、日野町初めての小さな拠点として、高宮の郷を立ち上げられ、6月のシンポジウム開催を皮切りに、島根県への視察であったり、数年間途絶えていた花火大会の復活など、精力的に活動しておられます。町といたしましては、このような取組を全地区に進めていきたいと思います。また、役場職員が各集落に出向き、地域づくり座談会を開催しております。この事業で、地域課題の抽出をスタートに、地域のつながり強化、集落機能の維持などを行って、未来につなげる支援を行ってまいりたいと思います。

次に、町に来られる観光客をどのように町の活性化に結びつけようとしてるかのお尋ねでございます。町には、金持神社への参拝、オンドリ観察小屋での野鳥観察、出雲街道根雨宿や城下町黒坂の町歩き、明地峠からの雲海撮影、伯備線沿線での列車撮影、鶉の池公園でのキャンプ場利用など、多くの観光客などの皆さんにお越しいただいております。町といたしましては、お越しいただく皆さんに、町内の観光資源や地域資源をPRすることはもちろんのこと、町内飲食店での食事や、町内小売店や金持テラスひの、日野町観光物産館金持神社札所などで買物をしていただくことにより、町の活性化に結びつけていきたいと考えております。

次に、廃校を活用して、町所有の文化・芸術関係の整備・活用が必要ではないかのお尋ねでございます。日野町の歴史文化を物語る文化財や美術関係資料を活用し、その魅力を発信したり、町民の文化的な興味・関心、豊かな心を育むこと、さらには町外の方にも、日野町を訪れ、多様

な価値を知っていただくことはとても大切なことであると考えます。廃校となる学校の活用につきましては、現在検討しているところでございますが、文化・芸術関係品を展示・保管することについては、具体の計画は現段階ではございません。

最後に、旧山陰合同銀行についてのお尋ねでございます。これにつきましては、昨年、耐震診断を行い、保存するには耐震補強が必要であるという結果が出ております。現在は、文化財保存活用地域計画にて検討を進めておりますが、その中でも、この旧山陰合同銀行の位置づけもされる予定でございます。その結果を踏まえて、今後検討を進めてまいるという予定にしております。以上でございます。

○議長（小谷 博徳君） 6番、松本利秋議員。

○議員（6番 松本 利秋君） それでは、再度質問をさせていただきます。

まず最初の、町の人口推計、高齢化、併せてさせていただきたいと思いますが、行政は諸課題を調査、推計し、将来計画を立て、行政を進めていかなければなりません、御存じだと思いますけれども。その指標の一つが人口であります。伺いたいのは、推計人口をどう分析され、行政を進められるかでございます。それで、先ほども20歳から60歳の人口が、問題が説明されましたけれども、2020年の国勢調査を見て感じたのは、5年間の人口減少率が11.3%、これは県下で3番目でございます。びっくりしました。これについてはどうでしたか、町長。

○議長（小谷 博徳君） 5年間で11.3%だったが、どうか。もっと具体的に。

○議員（6番 松本 利秋君） 5年間、11.3%で、県下でワースト3番目の減少率でございます。これ、どう感じられますでしょうか。

○議長（小谷 博徳君） 塚田町長。

○町長（塚田 淳一君） どうお答えしようかなと今ちょっと悩んでるんですけども、現実の数字としてそうなった、その結果が3番目であるっていうことは、これは事実だと思います。ただ、どういうんですか、そういうことに一喜一憂するんじゃなくて、やはり人口が減るっていうのはこのきり創生戦略の前提、その中でいかに持続可能なまちづくりをしていくか、具体的には、この減少のカーブを緩くしていく、そういうようなことに取り組ませていただいているところでございます。

そして、本問のほうで申しましたけど、今回の2020年の国勢調査の結果は、その推計人口に対して、緩やかなカーブにちょっと変わってきたっていうことで、非常に、分析っていうか、いい結果、ただ、内容といたしましては、先ほど申しました、いわゆる生産年齢人口がどおんと減ってます。物すごい極端な言い方をしますと、逆ピラミッドじゃなくって、ひよっとしたら空

中ピラミッドになっちゃうんじゃないかなっていう、そのくらいの危機感を持っています。

それと、午前中の御質問と兼ね合わせてですけど、やはりこういうデータが出たら、まさにDXでいろいろデータ処理をやって、いろんな分野で、先ほど議員おっしゃいましたけど、いろんな解析をしてみないといけないんじゃないかなっていうふうに、今、御質問をお伺いして感じました。以上でございます。

○議長（小谷 博徳君） 6番、松本利秋議員。

○議員（6番 松本 利秋君） やっぱり行政は、調べて分析して、その足りないところを補っていく、いいところは伸ばしていくということが大切だと思いますし、もう少し言いますと、高齢化率、65歳以上の人口の割合でございますけれども、2020年の国調では約51%、私が推計しましたら、10年後には55%ぐらいになるのではないかなと思って推計をしたところでございます。それから、75歳以上の人口は、2020年には30%でございます、約。10年後には38%と私は推計したところでございますけれども、これは、町の創生戦略で出しておられますのと相当な隔たりがあるように私は感じたりする。そこら辺について、もう少し高齢化に対する取組をされにゃいけんというように私は思うわけです。

そこで、移動販売と見守りは大変喜んでおられまして、私のところにも来ていただきたいというやな声も出ております。それから、車を持たない方の格安のタクシー、これも喜ばれております。それで、お年寄りが安心・安全に暮らせるまちづくりをするためには、高齢化社会を迎えますので、どのように考えて取組をされようとしておられますでしょうか。ここら辺の高齢化がだんだん進んでおりますし、そこら辺はどのように考えておられますでしょうか、取組を、安心・安全に暮らせる。そして、お年寄りが喜び、暮らせていただけるその取組が必要じゃないかなと思いますけれども。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 重ねての御質問でございます。この日野町に住む御高齢の方が、安全・安心で、それと、喜びを持って暮らしていくためにはどういう施策を打っていくのか、今、先ほど例示されました、本当に衣食住の部分、食の部分ですね、買物支援、それから見守り支援、そういったものを引き続きさせていただくということもございますし、あと、地域で生活される方が本当に健康で過ごしていただく、健康年齢を維持していただく、特に御高齢の方だと思いますけれども、そのためのいろんな御支援をさせていただく、そういった中で、地域のコミュニティーづくり、コミュニティーに参加して、体力だけじゃなくって、どういうんですか、言葉を発して、頭を活用するっていう、何かそういうようなのも組み合わせて健康づくりも進めていかな

いといけないと思います。

そして、やはりコミュニティーの維持っていうこともこれは大切なことだと思います。コミュニティーに高齢者の方に御参加いただいて、地域のことを語り、地域のことを未来に向けて語っていただく、実行していただく、そういった活動も御支援させていただくようにしておりますし、引き続きさせていただきたいなと思います。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 6番、松本利秋議員。

○議員（6番 松本 利秋君） そういう活動には、やはり金も必要でございますし、それから指導員の方も必要でございますので、そういう活動補助金が今、集落支援ということで自治会向けに出ておりますけれども、自治会向けと併せて、団体いうのでしょうか、そういうやな補助金のアップも必要じゃないかと思うわけですが、そこら辺についてどのように考えて今後いかれるのでしょうか、伺いたいと思いますけれども。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 地域の活力づくりのために、どういうんですか、地域活動を支援する制度設計として、集落単位、これも必要なんだけど、集落単位でない、何ですか、任意団体ですか、そういったところへの支援策も必要なんじゃないかなってようなお話でございますけれども、私の認識の限りでは、そういった任意団体っていうんですか、集落に限らず、幅広くそういう団体への支援は、県の補助制度なんかもございますので、そちらのほうで、そちらのほうに手を挙げていただいて補助金を取っていただく、そういうやり方もあるのかなと思います。ちょっと調べてみないと分かりませんが、いろんな支援制度があると思いますので、また調べた上で御提供していきたいと思います。

○議長（小谷 博徳君） 6番、松本利秋議員。

○議員（6番 松本 利秋君） ぜひとも検討いただいて、今は上限20万で、2分の1の補助が町はあるわけでございますけれども、そこら辺にもちょっと考えていただいて、より活発にできるように配慮いただきたいというやに思うわけでございます。

それから、次に移りますけれども、3番目の集落の維持でございます。集落機能を維持するためには、向こう三軒両隣ということわざがあるように、自助、共助だろうと私は思います。大きく言えば、先ほど町長もおっしゃいましたコミュニティーの充実でありまして、中山間地域振興監の川上さんには、集落にとにかく夜だろうと出向いていただいて、精力的にやっていただいて、敬意を表すものでございますが、その1つとしまして、先ほど話がありました、専従の集落支援員、それから、非常勤の集落支援員の配置を町内全体計画の下に行うのがよいというように思

います。この推進計画はどのように考えておられますでしょうか。

○議長（小谷 博徳君） よく分からないですか。

かつて、校区ごとにいうようなことを町長、答弁されましたですね。そこら辺の推進はどうかということだと思いますので。

埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 先ほど本問でも御答弁いたしましたけども、今、集落支援員さんが入られて頑張っておられる地域、いろいろ成果も上がっておりますので、この取組を本問のほうで全地区に進めていきたいと思えます。集落支援員の関係で、過去の御質問の中でどのくらいの単位だっというふうなお話があったかと思えますけど、その辺も申しますと、あまり小さな単位じゃなくて、学校区とか、旧村とか、そういうような固まりっていうんですか、範囲、そのくらいが妥当かなという感じを今持っております。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 6番、松本利秋議員。

○議員（6番 松本 利秋君） この集落支援員につきましては、町長も御存じのように、国の特別交付税がございまして、町が金を出さなければならないというもんでもございませぬし、特に今、上菅、菅福地区にやっておられますけれども、全町をとにかく早く取り組んでいただいて、そうすれば日野町全部もよくなりますし、そういうことでございまして、金は特別交付税で出るわけがございまして、とにかく取組を早いことしていただきたいというように切に思うわけがございまして。

それから、次、答弁にございました、役場職員が各集落に出向き、地域座談会を開催しておられるということを伺ったんですけども、私はこれは初耳でございまして、どこでどのようにやられて、成果はどうだったか、お聞かせ願いたいと思えます。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 先ほど本問のほうで、役場職員が各集落に出向き、地域づくり座談会、そういった機会をつくってるってことを申しました。具体的には、地域活動支援交付金を支援していただいた集落、そこに関係職員が出まして、地域活動支援交付金の活用であったり、そこでの目的とか、どういうことをやっていこうかっていう集落の、さらに深める手法、いろんなことをアドバイスしたり、御支援したり、また、御提案をいただく、そういうような機会をこの座談会ということで持たせていただいております。

補足は企画政策課課長のほうからさせます。

○議長（小谷 博徳君） 神崎企画政策課長。

○企画政策課長（神崎 猛君） 若干補足をさせていただきます。人口減少などについて、元気が失われてるというような御質問の趣旨だったと思うんですけども、集落のほうを再生していく仕組みということで、集落支援の交付金、行っておるわけでございます。

それで、先ほど町長申し上げました、交付金のBタイプと呼ばれるもので3万円交付させていただいてるんですけども、実際役場の職員も加わって座談会を開いているといったところでございます。

それで、現状は、この中で、課題であるとか、課題を解決するためにどうすればいいか、その中で、自治会のほうで役割をどう決められるか、そういった協議をしていただいているといったようなところでございます。

内容についての説明は以上でございます。

○議長（小谷 博徳君） 課長、どこでいうのがあったので、何か所ぐらいかぐらいは言えるかいな。

○企画政策課長（神崎 猛君） 失礼しました。今年度につきましては、大体、B型については17団体していただいております。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 6番、松本利秋議員。

○議員（6番 松本 利秋君） そういう地域づくり座談会ですと、私は、町長さん自ら、あるいは担当課が出られてお話をする会だと思ったりしました。当然、そういう補助金の関係でしたら、出て説明されにゃいけないのも当たり前のことでございまして、私はそうでなくして、昔やっておりましたけれども、地区に出てお話をすることだろうかな思っておったわけでございますので、それで、町長さん、大変多忙ではあると思いますけれども、今コロナの関係もありますが、町長さん自ら出ただいての座談会をやりたい、こう思うわけでございますけれども、私一人じゃないと思います。多くの皆さんが、町民の皆さん思っておられますけど、町長さん、どうでしょうか、約束していただけますでしょうか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） お約束っていうか、約束の前にちょっと整理しておきたいんですけども、今担当課長のほうが申しました地域づくり座談会、17地区、何も、出て聞くだけじゃなくって、また、伝えるだけじゃなくって、課題を共有してさらにステップアップしていこうっていうことで、まさに集落の集団の中に職員が入って、同じ目線で意見交換をしたり、こういう方向に持っていこうという話をさせていただいてるっていうふうに御認識いただきたいと思います。

そして、私のほうがいわゆる従来型のっていうか、地域座談会、これはぜひ本当、したいって

どうか、ちょっとコロナの関係でできてない、実は昨日も私、鳥取市から来られた方、それから、奈良のほうから来られた方、結構、やはり町外の方と随分毎日接触することがございます。やっぱりコロナのことが心配だし、昨日町長は誰に会ったっていうようなお話があって、ああっていうようなことも、まだそういう状況というのが完全に払拭できない中で、なかなかいつから始まりますっていうのはちょっと言いにくいんですけれども、ぜひコロナが鎮静化し、もしくは感染防止対策の徹底みたいなんができれば、ぜひそういう場を持っていただきたいし、持たせていただきたいっていうふうに考えております。

○議長（小谷 博徳君） 6番、松本利秋議員。

○議員（6番 松本 利秋君） それから、町は地区担当制を設けておられまして、広報等いろいろなものを担当者の方が持ってこられますけれども、その方とお話することもございませんし、町民の方はもちろんで、話の機会もないでしょうし、町長さん、そういう担当者の方が年に一遍ぐらいの集会所には呼ばなくても出ていただいて、町民の、住民の声を聞いていただきたい。それをまちづくりに反映していただきたいと思うわけでございますけれども、職員の方には大変でございましてけれども、そういう、やはり少なくとも担当者の方は年に1回ぐらいどもは出ていただいて町民の声を聞くと。聞いていただくというのも進めていただきたい。ただ広報関係のものを持って来られる場だけでなくして。それはどうでしょうかね。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 前回の議会でも同じような御質問、ひょっとしたらあったかなと思います。要は、各地区担当の行政情報を届ける地区担当が、ぽんと、不在でも、不在っていうか、不在のときを狙ってじゃないんですけど、不在のときにぽんと置くとか、会ってもはい、どうぞぐらいの会話しかしないで、何か、どういうんですか、いかがでしょうかとか、御要望はとか、こういう、要は会話がなくなっているようなお話がたしかあったと思います。その後、管理職会議で、こういうような御指摘があったんで、極力っていうかそういう、大体区長さんのところにお届けするんだと思いますけども、区長さんがおられるときに区長さんとできるだけ会話をして、地域の情報、状況を把握しなさいよっていうような、そういうことを徹底してくださいっていうようなお話はさせていただいたところです。今回、さらにそれを深めて、区長さんからいついつこういう集会をするんで出てこいやって言われたときには極力出てきてほしいっていうようなお話ですので、全部が全部出れるかどうか分かりませんが、そういう御要望があったっていうことは承知いたしましたので、できるだけそういうのに参加させていただいて地域との会話が進むようにしてまいりたいと思います。

○議長（小谷 博徳君） 6番、松本利秋議員。

○議員（6番 松本 利秋君） 自治会からそういう要望がある、なしにかかわらず、やはり集会のときには出ていただいて、町民の皆さんの声を生に聞いていただきたい。私、自治会長をやらしていただいておりますけども、なかなかそんなら、役場職員の方が書類を持ってこられたときに話をするということになれば、一応まとめておかんと話もできませんし、そういうこともありますので、職員の方には、役場の方には大変でございませうけれども、やはりとにかく出向いて行ってそれをやっていただきたいというように、まちづくりのためによろしくお願ひしたいというように思うわけでございます。

そうしますと、次の町の活性化について、2番目の問題に移りたいと思いますけれども、町内の観光地はいろいろありますけれども、どうも観光関係それぞれに、金持神社の関係だったらそこ、オシドリだったらここというように終わっておるじゃないかな思っ、私はそのいろんな方、飲食店もそうですけれども、この連携を保つことが大切ではないだらあか、日野町、オール日野町で、それが活性化の一つになりはせんだろうかと思ひますけれども、担当は観光担っておられるところじゃないかと思ひますけれども、その取組はどのように考えておられますでしょうか。私は前からこのことは言いよるところですけれども、金持神社なら金持神社、そこはやっておられます、もちろん。オシドリはオシドリ。でなくして、やはり連携を持つての取組が大切じゃあないだらあかな思ひますけど。月に1回やるとか、連絡会議を。そういうような取組をどのように考えておられますでしょうか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 議員さん御指摘のとおりだと思います。ただ私、先々週であったり、いろんな方とお話をする。先々週は倉吉の社会福祉協議会さんがお昼前後にかけて来られてました。お話をすることがありました。町内の飲食店で昼食をされてまして、すぐ近くにはオシドリ観察小屋があります、それから、テラスで地元の物産があります、金持神社がありますって言ったら、オシドリ観察小屋にはもう行ってきて、お昼だったから1匹もいなかった、お土産は買った、今から金持神社に行く、そういうような流れを、ちょうど地元の方が、地域の方がお世話されてまして、そういう面ではかなり、どういうんですか、ルートのものが町民の皆さんの意識にも浸透してると思ひますし、また、町外から来られた方にこことここ今いいですよって言ったら、うん、お昼を食べてここに行って、それからここに行くって、かなりその部分はインターネットで検索したり、町の観光パンフレットで、ここと、ここと、ここ、さらには町のホームページにもちょっと新しいコンテンツができてまして、そういうものも活用して並ぶっていうか、循環す

るような、そういう動きは町民の皆様の意識の中にも、また、訪れていただけるいわゆる観光客の方の中にも、随分昔に比べたら醸成されてるっていうふうに私は認識しております。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 6番、松本利秋議員。

○議員（6番 松本 利秋君） 私、ボランティアでオシドリや明地の雲海をやっておりますけれども、やはり話、対話をして、ああ、この方はこういうことだな思えば次の紹介を、日野町内の紹介をするように、食事についてはここにもこういうのがありますよというような紹介もしとりますし、もろもろの紹介をして、とにかく案内の、来ていただいた方を心を持っておもてなし、案内するようにしておるところでございます。

それで、私この間テレビを見ましたところ、こういうのをやったりしましたので日野町に置き換えてみますと、日野町にお越しの皆さん、特に金持神社関係が多いわけでございますけれども、ここに参拝、観光に来られる方の実態調査をすれば見えてくるものがあるじゃないかという、思うわけでございますけれども、これについてはどのように考えておられるか伺いたいと思いますけん。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） ちょっと実態調査の内容が分かりませんし、そういう、ひょっとしたら情報を担当課が持っているかもしれませんが、また担当課のほうで補足させますけれども、実態調査までじゃなくて聞き取り調査っていうようなことで、例えば金持神社であれば、どういうんですか、年末に関西圏、山陽圏で金持神社の関係のメディア露出が多ければ関西圏の方がすごくたくさん来られる。それは、どういうんですか、車のナンバーでも分かるんですけども、かなりそういうお話は聞かせていただいとります。ちょっと実態調査とかそういうのは担当課長のほうから補足させます。

○議長（小谷 博徳君） 五百川産業振興課長。

○産業振興課長（五百川和久君） 議員の御質問に補足の答弁をさせていただきます。金持神社にいらっしゃるお客様についての実態調査という御質問でございます。私、来させていただきましたから何度か金持神社に行かせていただいて、イベントのときに駐車場整備とか、いろいろ状況の確認をさせていただいとりますが、今、実態調査をしているというところ、また、今、計画というところはございません。しかしながら、議員御指摘ございました、確かにこの間南部町と、そして新日本海新聞社様とともにサイクリングイベントをさせていただきました。この際には一緒に、自転車のいらっしゃるお客様をお迎えする際に一緒に業務をしてくださった方もかなり県外者が多くて、ここは県外の方が多く、そして関西圏、そして山陽圏が多いなというような御認

識はございました。金持神社だけではなく、日野町には様々な県外からいらっしゃるお客様が
ございます。オシドリ観察小屋にしても北海道、そして九州、様々なところからいらっしゃって
おります。

御質問のお答えにはなっていないかもしれませんが、実態調査の可能性等につきましては、今
実施する等どうこうは述べることはできませんが、先ほど議員も御指摘ございました明地峠、そ
して明地峠から広がる映画の撮影スポットですとか、そういったところも踏まえて周遊してい
ただけるような取組についても、例えば今、明地峠の雲海スポットのところに町の観光パンフレッ
トを試験的にちょっと今置かせていただいております。町に単体で来ていただくのではなくて、
周遊ができるような、それを知っていただくようなところからは進めれるのかなと思ってお
るところでございます。議員御指摘のとおり、関西圏、そして山陽圏からのお客様が多いというの
は認識をしているところでございます。以上でございます。

○議長（小谷 博徳君） 6番、松本利秋議員。

○議員（6番 松本 利秋君） 確かに、話をお客さんとしていって、次はこういうところがあり
ますよ、明地峠の雲海で話をしますと、オシドリの話をしますとオシドリ小屋に次行けば、そこ
へちゃんと来ておられますし、やはりそこから次に伝えて、町内のいいところを案内して行っ
てもらうということが、私は実践してつくづく大切ではないかと思えます。先ほどの金持神社に
来られた方の聞き取りをして、どういうあれをされるか、それだったらそこに、ものなりいろ
んなことをつくっていけばいいわけでございますので、とにかくはやっぱし下調査、全てが
それから始まるじゃないかな思うわけでございます。ひとつそこら辺の取組を、町の観光
全体のものとして考えていただきたいというように思うわけでございます。

そうしますと、その次に移りたいと思えますけれども、2番目の廃校を利用した文化・美術
関係の整備についてでございますけれども、これもまた再度の質問になりますけれども、
これは町民の豊かな心を育むのが第一の目的として考えております。それで、次に、
観光客を呼び込み町の活性化に結びつけることができるというような考え方について
申し述べるものでございますけれども、そこで、廃校を活用した文化施設、八頭町の
芸術文化交流プラザ、あーとふる八頭、町長も11月4日付の日本海新聞で見られた
と思えますけれども、御存じでしょうか。

○議長（小谷 博徳君） 質問、御存じでしょうかは質問じゃない。

○議員（6番 松本 利秋君） はい、ええ、時間がもう、あれですね。それで私は、
そこに行ってきました。地元出身の版画家、洋画家の作品、アマチュア天文家の
プラネタリウムもありました。出土品も展示してございました。町の芸術文化
作品も展示してございました。驚いたことに

小学校を卒業した子供部屋も設けてあって、その活動も展示してありました。あまりにきれいに掃除がしてあるもんで尋ねたら、子供たちがボランティアで清掃しとるということで、まさに体験活動の学校だというように思いました。公民館もやっておられました。やはり、こういうのがひとつ必要じゃないかというように思うわけでございまして、再度検討していただきたいというように思うわけです。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 議員さん言われる11月4日、新聞、私もカラーの写真が載っててすごいきれいだなんて。旧八東町の安部小学校、それを上手に活用したと。何か、写真のアングルかもしれないけれども、廊下がすごく広く写ってたなって思いました。そこに御案内の、船岡出身の橋本さんであるとか、佐治、佐治かな、本田さんって、何人かの郷土出身のそういう芸術家の方、そういった方の作品が展示されてある。ちょっと私、すごい興味を持ったっていうか、写真でしか見えてないんでどういう形の展示なのか、また、その整備に幾らぐらいお金がかかったのか、それと、まさに常設なんか企画展示なのか、いろんなちょっと、写真では分かりにくかったんで、ちょっと参考までに八頭町さんのほうにいろいろ資料をもらうようなこともせんといけんかっていうことを担当課に話をさせていただきました。そういうことでございます。八頭のそういう取組がすごくいいっていうのは確かにいいかもしれないけれども、どれぐらいコストがかかってるのか、それはお金だけじゃなくって人間の配置っていうか職員の配置もあったり、いろんなことがあると思いますので、いろいろ情報は取ってみたい。まずそこからだなと思います。

○議長（小谷 博徳君） 質問は受け付けません。時間が切れましたので。

松本議員。

○議員（6番 松本 利秋君） ぜひ、町長、行ってみてください。

時間が来ましたので、これで終わります。ありがとうございました。

○議長（小谷 博徳君） 6番、松本利秋議員の一般質問が終わりました。

○議長（小谷 博徳君） 次に、7番、安達幸博議員の一般質問を許します。

7番、安達幸博議員。

○議員（7番 安達 幸博君） 安心して暮らせる町にするために、一般質問を行います。

安全・安心して暮らせる町とは、防犯、防災、減災、健康、医療、福祉、介護、公共交通、高齢者の生活支援など様々な角度から考える必要があります。今までさきに述べた項目について具体的提言をしてきました。その中には予算づけがされ執行されたものもありますが、いまだ動き

がないものも多々あります。平成31年3月に高齢者向け住宅整備を問うたところ今後の検討課題だと答弁されていますので、3年経過した今の考えをお聞きしたいと思います。また、医療の関係で考えると、本町は金持神社、オシドリ観察など観光人口や通勤における昼間人口が多い町です。本町の住民を含め急に近くにいた人が心臓を押さえ倒れたとき、私たちはどうしますか。救急車を呼び、AEDを探します。安心して暮らせる健康医療の視点で考えると、AED設置数は多いほうがいいと思います。

述べました背景、趣旨から、2点について質問をいたします。1つ、高齢者向け住宅について考えを伺います。2つ目、AED設置の推進について伺います。町長の考えをお聞きしながら、安心して暮らせる町にするための施策を問いたいと思います。よろしくお願いします。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 7番、安達議員さんの御質問にお答えします。

初めに、安心して暮らせる町にするために高齢者向け住宅の整備についての考えはどの御質問にお答えいたします。平成31年3月議会で同様の御質問をされ、今後の検討課題であると認識していると回答させていただきました。その後、第2次きりり日野町創生戦略策定時など検討を重ねましたが、結論から申し上げますと優先順位としては低く、現在策定している創生戦略にも明記していないのが現状でございます。現在、都市部を中心に民営によるサービス付高齢者向け住宅や軽費老人ホームが増加しておりますが、仮に民間事業者が設置し受入れを開始したとしても、高額な家賃等が必要で日野町の皆様にとってメリットがあるとは言い難く、高齢者見守り支援員の聞き取りなどの結果も見ますと、高齢者向けの集合住宅のニーズはほとんどないのが現状であります。人と人とのつながりを大切に、生きがいを持って安心・安全に暮らせるまちづくりを目指し、今後も介護サービスや見守り体制の維持、地域での支え合いなども、施策を中心に、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けていただくことができるようなまちづくりを進めてまいりたいと思います。

次に、AEDの設置の推進についてのお尋ねでございます。まず初めに、町内でのAED設置状況ではございますが、令和2年の春には、各家庭にお配りさせていただきました日野町防災マップに示しておりますとおり、町内では24か所にAEDが設置されている状況でございます。設置主体は町や県などの自治体だけではなく、福祉施設や民間事業者でも設置をされているところがございます。町施設の設置場所といたしましては、日野町役場、町図書館、町公民館、町防災センター、金持テラスひの、根雨小学校、黒坂小学校、日野中学校、リバーサイドひの、ひのっこ保育所の10か所で、1度に多くの人が集まる場所を中心に設置しており、住民の皆様にあ

心を与えられることについて一定の成果を上げているものと認識しております。以上でございます。

○議長（小谷 博徳君） 7番、安達幸博議員。

○議員（7番 安達 幸博君） 御答弁いただきましてありがとうございます。いささか残念といえますか、本当にどん底にたたきつけられたような思いであります。その思いとは、3年前と全く同じ答弁です。高齢者住宅についてはニーズがないとか、特に今回は民間業者が日野町に設置してもほとんど入る人いないでしょうという、もうたたきつけられたようなことなので、そういうふうも含めて、全くもうやる気がないという、こういう設備は日野町にはそぐわないんだというような答弁でありますので、ニーズって本当にないのかなというのをもう一度一緒に考えてみたいと思います。さっきも、3年前も最初にこういう答弁を、回答を町長されて、私は、いや、それでも掃除や、雪かきや、洗濯や、買物や、なかなかおっくうになった人はできない。ましてや電話で勧誘があったり、あるいは詐欺にかかりかけたり、そういうことも毎日が不安になってくるってというようなことも申し上げたら、町長は最後に検討課題だということをおっしゃって、このときはかなりの質問量がほかにもあったので、それでほかの質問に移りました。そこで、あれから3年たちまして、特に今回は、検討課題という答弁だったので、いつかの一般質問のときにも申し上げましたが私が議員になったときに執行部から、検討するということがあったらそれはしないという意味も含んでるので、よくよく自分で吟味して質問を続けるようにというようなことを教えられました。そういうことで私はそれ以後、検討するという答弁はどちらの向かっての、しないというのか、本当に検討すると前向きなのかを吟味しながら質問をしているつもりであります。今回は特に検討課題って、まだまだ検討を先送りされたような答弁だったので、本当に検討されたんかなと思いつつながら、3年もたってるので高齢者比率も上がってきてるし環境は随分違って来たと思うので、もう一度してみようということで今回取り組みました。そうすると、そこで先ほどの答弁に、それでも検討してもらったんだなとそこは感謝申し上げますが、創生戦略を策定するに当たって検討を重ねましたということなので、どういった検討をされたのかなと参考までにお聞かせ願いたいと思います。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 31年の3月議会で御質問いただいて、今後の検討課題であると認識してる、そのときの状況、確かにそういったものがあるほうがいいなっていう感じ、そして近隣の町でも高齢者向け住宅っていうか高齢者向け住宅のようなものを町の中心部に整備してるっていうようなお話もございましたし、そういうことも聞いておりましたので、どういんですか、世

帯向け住宅とか、若者世帯向け住宅っていうようなものと併せて用地を確保して、そういったものを整備するようなこともひとつ検討っていうか、課題に俎上させて、いろいろ関係課と、どういんですか、議論をした、そういうようなことがございます。そうですね、それと検討するっていうのはほっとくよっていう意味合いじゃなくって、いろいろまた情報を集めてっていう、情報を集めてさらに深めていくっていう、そういう意味合いの検討でございます。今、本問のほうでお答えしましたけども、料金が高いとか云々かんぬんもございますが、私の思いでは特に今、高齢者の見守り支援をさせていただいております。高齢者向けの住宅っていうことになると、やはり高齢者向けの住宅が必要になる御高齢の方っていうのは、単に物理的距離が買物のところから遠いだけじゃなくて、やはり福祉関係のサービスの需要も随分ある、そういう方が需要者になれるんじゃないかなっていう思いも持っておりますので、そういった中で高齢者見守り支援員の聞き取りっていうか、日記っていうか、報告書ですね、そういうのを見ますと、そういった今の住宅から出てこういうところに移りたいっていうようなお話はされないのが普通なのかもしれませんが、されることもあると思いますけど、そういう、どういんですか、情報は記載されておりましたのでそういうニーズがないっていうふうに理解しております、今のところ。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 7番、安達幸博議員。

○議員（7番 安達 幸博君） なかなか高齢者のニーズっていうのが、本当にサービスつきの高齢者住宅っていうものの、そもそもそういうことを知らないと思います。この制度ができてまだ10年ですからね。なかなか高齢者の方にそういうサービスつきのものがあるよっていうのは浸透していないと思います。ただ、知ってるのは昔からある老人向けのところで、高いんだらうね、そういうところへ入るといような認識しか私はないのではないかなと思います。

そこでもう一つ気になるのは、この優先順位としては低くっていうのは、何と比べて低いんですかね。日野町の全体の事業としてこの高齢者向けのサービスっていうのは低いのか、あるいは高齢者の支援についての中ではこういう施策は低いんだよって思っているのか、そこを聞きます。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 議員もおっしゃいましたけど、高齢者の住居の安定確保に関する法律、これは平成13年にできてまして、その後の法改正で、23年ですからまさに10年前ぐらいにサービス付高齢者向け住宅需要、これに特化したっていうような、そういうのがございます。

それと、優先度っていうことでございますけれども、いろんな側面ございます。今、日野町の

人口構造、そしてきらり日野町でっていうところで、やはり若者向け、若者の移住定住、世帯の移住定住をして、移住定住を促してこの町の人口をできるだけ維持っていうか、先ほどの質問にありました人口減少勾配を緩やかに、そして学校の児童生徒数を一定の規模に維持していこうっていうような取組の中で、やはり世帯向けであるとか若者向け、そういったものの住宅っていうようなことのほうが、どういうんですか、ニーズも高いし、また行政としても力を入れていかないといけない部分だ、そういうような観点から全く必要ないっていう話ではないんです。優先度が低い、その優先度が低いっていうことについては需要がほぼないっていうことで御理解いただきたいと思います。

○議長（小谷 博徳君） 7番、安達幸博議員。

○議員（7番 安達 幸博君） どうしたら優先が上がるんでしょうかね。あそこのニーズ的なものが大変多くあるかと思うんですが、これからそのニーズを持っていらっしゃるのはいかがでしょうかというお話をしながら進めたいと思うんですが、答弁でもう一つ私は気になるのは、そういう地方戦略のときに検討しました、優先順位が低いので、だから明記もしてませんですよっていうことが書かれているんですが、ちょっと心配なので改めてお聞きしますが、今後この地方戦略に、きらり創生戦略に明記がしてなかったらしないという意味に捉えといたらいんですか。そういう観点があるのなら、何ほいろんなことを気がついて一般質問して政策提言してもすぱっと切られてしまうのでね。そこをもう一度、町長の考えをお聞きしときたいと思います。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） この町を未来に引き継ぐってことで7つの項目、その7つの項目で住んでる人の幸福とか安全・安心な暮らしをという、大きな項目、方針、そういった中では読み込めますし、それを積極的に施策として展開していくっていう、要はその部分で、あそこに書くのは恐らく投資的経費の部分とか、ずっと続けていく、ずっと続けてっていうか、計画下の5か年間は一生懸命これやっていくんだよというようなことで記載させていただいてるというふうに私は認識しておりますので、今、議員さん御指摘のこのサービス付高齢者向け住宅、こういったものに取り組むっていうことであれば当然いろんな取組として社会基盤的な整備になりますので、そこには記載してあるのが当然かなっていうふうに、当然記載されるべきだなっていうふうに私は考えております。

○議長（小谷 博徳君） 7番、安達幸博議員。

○議員（7番 安達 幸博君） よく分からないんですね、どっちにも取れてしまって。明記してないもんでもやりますよというのか、明記をしてないものは当然お金も要ることだし、しません

よというのか、分かりません。再度聞きます。そこは大変重要なことでね、我々の仕事のことに
ついてでも。仮想計画の中で、使うときに明記はしてないものは追加で書くこともありますよ。
そういう手法だってあると思うんですが、今必要だなんていうことを執行部内部でも考えられた
ときに、いやいや、これはきり創生に明記してないけんできないよということになるんですか。
そこをもう一度確認しときます。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 重点的に取り組むべき、まさに、さらには積極的に取り組むべきこと
につきましては、記載っていうのがあってしかるべきかなって思います。ただ、議員も御承知と思
いますけど、PDCAサイクルでやってますので見直しとかそういうのもございます。今記載し
てないから5か年間しないよとか、具体例ではないですけども、そういう見直し検討も毎年やっ
ておりますので。

○議長（小谷 博徳君） 7番、安達幸博議員。

○議員（7番 安達 幸博君） 切捨てでなく受皿はあるということですので、安心して今後も私
たちは一般質問で提言をやっていきたいと思います。そこで、このサービス付高齢者住宅は建て
る気もないし民間に誘致をお願いする気もないというような御答弁なんですけど、これ、全く日野
町は関連とか関係的なものはないんですか。どっかの記述があるとかそういうものはありませ
んか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 私ちょっと、全部知ってるわけじゃないんですけど、先ほど御紹介しま
した高齢者の安心のためのその法律、国土交通省と、それから厚労省の共管の法律でございます
ので、ひょっとしたらそれぞれの、例えば国交省関係の住宅政策をやっている部分、これも記述な
いと思いますけども、福祉計画のほう、これもちょっと過去に読んだんですけどないような気がし
ますけど、ちょっと確認できるかな。補足できますか、サ高住の。じゃあ、ちょっと補足させま
す。

○議長（小谷 博徳君） 住田健康福祉課長。

○健康福祉課長（住田 秀樹君） お答えいたします。現在、手元に資料はございませんが、健康
福祉課が立てている計画類にサービス付高齢者住宅の記述、文言の中ではあったと思いますけれ
ども、これを建設するであるとか、そういったところにはまだ至っておりません。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 7番、安達幸博議員。

○議員（7番 安達 幸博君） 言われるとおり、第8期日野町高齢者福祉計画の中に文言があり

ます。7期にはなかったんです。8期になって、特にある場所が、この計画の基本的視点っていう最も重要なポジションが6つ書いてあるんですけどね、その中の4番目に書いてあるんです。有料老人ホームとサービス付高齢者住宅に係る県・市町村との情報連携の強化って書いてありますので、私この意味合いがよく分からない。もちろん、さっき言われたように建設しますとかいうわけではないんですが、これは、あえてまたこの視点のところに書いてある意味はどういう意味なんですか、町長。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） ちょっと具体的にその部分、すみません、読み落としてますけれども、一般的に計画とか構想をつくる上において、視点というのは立ち位置みたいな感じですよ。そういうの、現状は世の中はこうなってる、そういうような意味合いだと思います。すみません、ちょっとその本体を読んでませんのでお答えしようがございません。

○議員（7番 安達 幸博君） でも、町長がつくっとんだで。町長がつくったんだけん、分かる人に振ってもらってもいいよ。

○議長（小谷 博徳君） 住田健康福祉課長。

○健康福祉課長（住田 秀樹君） お答えいたします。実は、高齢者の方々の支援をするのに地域包括ケアっていう言葉がございます。その地域包括ケアを推進していくために重要な要素として高齢者の住まいっていうのがございます。この住まい、日野町内にはないんですけども、近隣市町村にはそういった老人ホームでありますとか、サービス付高齢者住宅がございます。冬の期間、相談があるケースがございます。冬期間なかなか1人で暮らすのが難しいっていう方がおられましたら、包括センターのほうに相談がございまして、その方の次の、冬期間だけの住まいを一緒にお探ししたりというようなところがございますので、そこら辺りで、その視点の中には必ず住まいというところは入れるようにしておるところでございます。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 7番、安達幸博議員。

○議員（7番 安達 幸博君） ということは、全く町村のは関係ないというわけではなしに、中には希望されたときに、本町にそういう施設がないので他町の施設に入れるか情報とかをしっかりと取っていかうということですがね、でも県には、県は、まあちょっとその話は長くなるんで、次、時間があつたら県の話もします。

そこで、こういう高齢者サービスつき住宅に入る人というのは、今現実にはどういうことでそれをカバーしてるかっていうところなんですよね。入れないけど何かで、みんなのいろんな支援でカバーをしておるんですが、その1つに通所介護、いわゆるデイサービスですね。それから、

通所リハビリテーション、これは同じデイサービスだけどころな機能回復みたいなことも入っている。それから、高齢者をいろいろ面倒見てる家族の方がちょっと用事だっていうときに短期入所とかがありますね。それで、もちろんそれも訪問介護があって自宅でヘルパーさんが行くとかですね。同じく、自宅で入浴介助をするとかね。そういうことをしながら今の高齢者を支えているんです。これができなくなったところで、今のサービスつきってというのが要るってところに行くんです。それで、このサービスがもう一つ付け加わるわけです、本町では。小規模多機能性居宅介護ってというのが新たにできかけてますね。これは今までとどういふ違いがあるサービス施設なんですか。これは、本町は県から、こういう、本町は施設を造ってもいいですかって本町が許可をもらって、それでこういう事業をしたい人は手を挙げてくださって募集をして、日翔会が受けましたということだけは議会も報告を受けておりますが、その後、これはどこに建っていつから使えてというところを、また、どういふ、いわゆるデイサービスでの違いがあるのかを教えてくださいませんか。

○議長（小谷 博徳君） 町長。

○町長（埜田 淳一君） 現在取り組まれております小規模多機能型施設の概要、どういふ機能があるのか、今その建設はどの程度まで進んでるかというような御質問です。詳細でございますので、健康福祉課長のほうから補足させます。

○議長（小谷 博徳君） 住田健康福祉課長。

○健康福祉課長（住田 秀樹君） お答えいたします。先ほど質問がありました小規模多機能型居宅介護、これが新たなサービスとなります。建設予定地は旧根雨中学校のともとも社会体育館があった跡地になります。現在、ちょっと進捗状況が当初の予定より遅れておりますが、3月の半ば完成予定で工事のほうを進めております。

サービス内容なんですけれども、先ほど議員おっしゃいました、今までは通所サービス、訪問介護サービス、ショートステイ、こういったことを別々の契約を結ばないと利用することができませんでした。この施設のサービスはそれらを一体化したサービスになります。ですので、より利用者の実情に合ったサービスが展開できるものと思っております。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 7番、安達幸博議員。

○議員（7番 安達 幸博君） また新たな、本町に施設ができて、今高齢者の方が自宅で生活されている方の支えになっておるっていうのは、また新たな施設ができてうれしい限りであります。でも最終的には、やっぱりサービスつきのそういう高齢者住宅に行きたい、行かざるを得ないっていうことがやっぱり今後は増えてくるって思うので、しっかりとそこはニーズとして捉え

ていただきたいなと思うんです。県は先ほども申しました高齢者住宅安定確保計画というのを立てておるんですが、まだ町村にはこれの義務づけはありませんがね、県の指標を見ると、やっぱり高齢者人口の3パーから5パーはそのニーズとして捉えてこういった住宅をつくらないといけないという書き方がしてあるので、やっぱりニーズとしてはあると思うので、しっかりと今後、してください。それでやっぱり、施設に入りたいけど入れないというのはやっぱりお金の問題ですよ。高齢者だから年金生活ですからね。本当に国民年金でも入れるっていうようなものでないと、なかなかそれは、私も行きたいわっていう本当の発言はされないと思うので、ここらも含めて今後の検討をお願いしたいと思うんですけど、町長、どうでしょうか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 私の手元に鳥取県高齢者居住安定確保計画、ちょっと第2期分でもうそろそろ終期になってるかもしれませんが、これ読んでますと、今御高齢の方で介護が必要な方ばかりではなくて、高齢者の方で要は介護予備軍っていうか、そういう方も入れる、要は今困ってるからじゃなくて、将来を見込んでっていうような方も当然そういう需要者っていうか、需要者でその対象になり得るっていうようなことも新たに勉強させていただきましたので、いろいろ関心を持って考えてまいりたいと思います。ちなみに私ちょっと調べましたら、近隣では米子市に4か所ぐらい、鳥取市とか倉吉市にもございます。市部にそういうサービス付高齢者住宅が、かなり高層ビルっていうんですか、高層ビルっていう3階建て、4階建てなんですけど、そういうようなんで造っておられるようでございます。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 7番、安達幸博議員。

○議員（7番 安達 幸博君） そういう施設のことがありましたので、もっと近くには伯耆町の大殿にあるんですよ。日野町の方もお世話になったサービス付高齢者住宅ですのでね。だから、日野町の人がニーズがないわけではないので、町長、よろしくお願いします。

次に、AED設置の推進について、今、御答弁がありました24か所ありますということなので、町の関連したところは先ほど答弁の中にも入っておりましたが、民間とかももし把握されましたらこの24か所を教えてください。

○議長（小谷 博徳君） 景山総務課長。

○総務課長（景山 政之君） それでは、安達議員の質問にお答えいたします。町がお配りしております防災マップの、ハザードマップの地図内に表示しております24か所の施設のほうを言わせていただきたいと思います。根雨地区につきましては先ほどと重複しますが、根雨地区につきましては日野町役場、町図書館、日野振興センター、金持テラスひの、日野高校根雨校舎、町防

災センター、セルプひの、根雨小学校、日野中学校、ハローワーク米子根雨出張所、鳥取銀行根雨支店、JA西部日野支所、おしどり荘、かじか荘、いちょうの木、あいご、日野病院の17か所。日野地区は日野高校野球グラウンド、リバーサイドひの、ひのっこ保育所の3か所。黒坂地区につきましては町公民館、黒坂警察署、根雨小学校、日野高校黒坂農業実習棟の4か所、合計24か所でございます。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 7番、安達幸博議員。

○議員（7番 安達 幸博君） 小学校は黒坂小学校ですね。かなり、やっぱり官公庁とかが、事業所も根雨にたくさんあるというので偏ってますよね。だから、そこをどういうふうにカバーしていくかっていうのが今後の課題だと思うんです。それで、それをなるべくどういう方法でカバーしましょうかというお話をして、推進を進めましょうというところにつなげたいと思うんですが、まず、役場が、1台やっぱり30万ぐらいするんですよね、この高額なものをどのように調達してますか。リースとか、あるいは一括とかいろんな方法がありますが、どのような形態で役場は購入してますか。

○議長（小谷 博徳君） 景山総務課長。

○総務課長（景山 政之君） 町有施設のAEDにつきましては、町でリースではなく購入しとるという状況でございます。なお、本体につきましては8年間使えるということで、8年たてば新しい機器に更新をいたしております。また、バッテリーにつきましては4年に1回交換ということになっております。ですので、購入してから1度はバッテリーを交換する必要が出てくるということでございます。また、パッドにつきましては2年に1回交換をする必要がございます。ですので、購入してから3回はパッドの交換が必要ということで、購入につきましては大体本体の購入、バッテリーの購入、パッドの購入等を含めますと、30万を超えるという金額が8年間にかかってくるということになっております。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 7番、安達幸博議員。

○議員（7番 安達 幸博君） 8年で30万が高いか安いかにいえば、安心・安全のためには安いと思って設備投資をお願いしたいと思うんですが、役場の施設の中でもないところがあるんですね。例えば日野地区には3か所しかないということであれば、憩いの家なんかは当然つけてもいいと私は、場所的にも、思ったりします。また、幾ら根雨の町に多いても下町に集中しとるとかね。そういうことを考えると町公舎等も対象になるんだろうなど。あるいは、谷筋でいえば真住公民館等もそういった対象になってくれば、しないかなと思うんですが、町長、こういったところの整備はどう考えますか。

○議長（小谷 博徳君） 埜田町長。

○町長（埜田 淳一君） 私もAED、どういうんですか、常日頃ここにあるなというぐらいにしちちょっと思ってなかったんですけども、議員さんの御質問の中で安心・安全のためっていうような、そういう観点からはたくさん、たくさんあればいいっていうか、ちょっと言葉がうまく言えないんですけども、そういうような観点、あ、確かについて思いまして、それで今、いろんなもの調べてみましたら、一般財団法人日本救急医療財団、これがAEDの適正配置に関するガイドラインっていうのを出してます。平成の30年12月の25日、このガイドラインにもAEDをたくさん、適切に配置するっていうか、たくさん配置するべきだ、ただ、AEDの効果的、効率的な設置に当たって考慮すべきこととして、心肺停止の発生頻度が高い場所であるとか、心肺停止のリスクがあるイベントが行われる場所であるとか、救急の手があるところとか、救急隊到着まで時間を要するような場所、そういうような、こういうような視点でやはり、そういう今申し上げました4つ、これ以外にもあるかもしれませんが、そういう頻度が低いっていうことなのかなっていうふうに思いました。

一番私がネックに思いましたのは、救助の手がある、要ははしよりますけれども、AEDだけでは、AEDの操作っていうのは訓練も要りますし、その前にどういうんですか、確認して、それから気道を開けるっていうか、やっぱりAEDを使うために人手も要りますし、訓練っていうか講習を受けていただく、何かそういうことがしないとなかなか、あっても使えない、そういうところがネック、じゃあそのネックをどう解消していくのかっていうのが、AED設置の大きな課題ではないかなと思ってます。ちょっと言い過ぎたかもしれませんが。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 3つの提案した場所はどうしますか。

○町長（埜田 淳一君） えっ。

○議員（7番 安達 幸博君） 3つの、町の提案した場所。

○町長（埜田 淳一君） 今のような視点を踏まえて検討、検討っていうか、してまいります。

3つ。3つが……。

○議長（小谷 博徳君） 町公舎とか、憩いの家とか。

○議員（7番 安達 幸博君） 町公舎と憩いの家と真住公民館。

○議長（小谷 博徳君） 検討しますということです。

7番、安達幸博議員。

○議員（7番 安達 幸博君） 町長、私も真剣ですからね、真剣に捉えてください。今、基準をおっしゃったけど、それは確かにそのとおりです。でも、この器械を倒れた方がいらっしやっ

ときに5分以内でしないと、なかなか5分が過ぎた後は効果が、がんと減ってくるだそうです。ということは、行って帰ってしたら自分のおる範疇2分以内に、あすこにあるぞってというのが分からないといけないために、幅広く数があったがいいねってということなんです。そこで、先ほど町長言われたようにあれば、救助の訓練も必要です心肺蘇生も含めて、それからここにあるぞってという表示をきちんとする、統一な表示をする、そしてマップがあるんです。今、スマホでぼんと入れたら日野町でも出てきます。ここにマップがあるっていうのはあるので、そういうマップにきちんと登録するように、自治体のほうからもね、民間、載ってないのもたくさんありますので。ぜひそういうのを啓発してください。その地図に登録しましょう、してもいいですかっていう、そういう活動をしてこの推進につなげていってほしいなと思います。

もう一つは、自治体等で買って……。

○議長（小谷 博徳君） 端的に質問してください。

○議員（7番 安達 幸博君） 買いたいわっていうときの、補助制度も私はあってもいいと思うんです。消防器具とかLED照明をつけるときに補助がありますね。そういうふうなことも考えてほしいと思うんです。町長、どうでしょうか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） まず1点、AEDの設置場所、設置主体さんが全部網羅されてないっていうか、積極的にこの施設、我が施設にありますよっていうようなことについて、ちゃんと見える化できるように啓発っていうか、お願いしてみないかっていうことですので、これはそういう情報を流していきたいっていうか、取組をしていきたいと思います。

そして、AED導入の補助制度っていうことですがけれども、これ先ほどちょっと申しましたけれども、そのAEDを操作する人、要は講習を受けてちゃんと使える、その前後のこともできる、そういう講習と併せて、講習を、例えば集落で一人受けられるんじゃなくて複数人、講習を3人以上受けて、例えばですよ、何人かがAEDを使える、そういうような体制っていうか条件をかなえたら、補助事業にのれるとかですね、講習を終えてからじゃあ、翌年度じゃなくて、ちょっと同時並行のような形がいいと思いますけれども、やはり、使えないといけませんので。その辺はちょっと工夫して設置を進める手がかりっていうか、きっかけにしまいたいと思います。

○議長（小谷 博徳君） 町長、設置を進めるじゃなしに、補助制度を。（「補助制度」と呼ぶ者あり）補助制度を設けたらどうかという質問の答え。

○町長（埴田 淳一君） ですから、講習と併せて。

○議員（7番 安達 幸博君） ああ。なら、するっていうことでいいですね。

○町長（埜田 淳一君） ええ。講習もせずに、物を置くだけでは使えない状態っていうのが予見されますので、そういうことにならないようにしたいと思います。

○議員（7番 安達 幸博君） 要綱にそのことをつけて、制度はつくりたいという解釈でいいですか。

○町長（埜田 淳一君） はい。

○議員（7番 安達 幸博君） 最後に前向きな答弁いただきましたので、ぜひ早めに要綱をつくってください。以上、終わります。

○議長（小谷 博徳君） 7番、安達幸博議員の一般質問を終わります。

○議長（小谷 博徳君） ここで休憩を入れます。開会は、3時から開会したいと思います。休憩。

午後2時50分休憩

午後3時00分再開

○議長（小谷 博徳君） 再開をいたします。

次に、3番、金川守仁議員の一般質問を許します。

3番、金川守仁議員。

○議員（3番 金川 守仁君） そうしましたら、私の質問のほう、今日の最後になりますけども、45分間ぐらいだと思いますので、お聞きいただければというふうに思います。

一般質問の通告書に基づいて、私は2つの質問を、面ではなくて点で質問したいと思います。町のいろいろな行政の中で、ちょっと皆様が疑問に思われたこととか、こういうのがあればと、というふうなことで、点でもってお聞きしたいというふうに思います。

まず質問の項目なんですが、1つは、金持テラスひののレンタルキッチンの活用について、それからもう一つは、移動通信基盤整備の、これは同僚議員からも一部質問がありましたけども、実態について、この2つについて質問します。

質問の背景なんですが、日野町の一番にぎわうといいますか、商業総合施設である金持テラスひのが、この11月で5年を迎えました。そこで、この施設の契約更新期となる中で、次のステップアップがかなり期待されると思います。というのは、まめなかやだとか、パン屋さんであるとか、いろいろな施設が多くどんどん出て、出店していただくようになりまして、町内外からも多くの人たちが交流場所として、道の駅的な役割も含めながら人が集まるように、ますます期待ができると思います。その中で、隣のホームセンターだとか飲食店、この辺も含めた立ち寄りさ

れる皆様も多くなってきたと感じております。施設内での、その中の一番メインとなりますが、その入ったすぐのところなんです、レンタルキッチンの活用に関わることも、そろそろこ入れといいますか、町としてもいろいろ手をかけていかれるようになったらいかがかなということで、質問とさせていただきます。

その質問の中で、3つ御質問したいことは、現状のレンタルキッチンの契約状況について伺います。それから2つ目としては、出店契約区分費用負担、それぞれのスペースの中の、共有場所の区分について、少し詳しくお伺いさしていただきたいというふうに思います。3番目としては、今後のレンタルキッチン、この場所の有効活用といいますか、活用の案があれば、そんなものについてもお聞きしたいと思います。

2つ目の質問は、移動通信基盤整備、要するに携帯電話関係、モバイル関係、その辺のものも含めてなんです、実態について日野町の実情をお聞きしたいと思います。

背景につきましては、携帯電話は、私たちが安全に暮らす重要なアイテムと既になっておりますのは、御存じのとおりだと思いますが、その移動通信エリアが一部制限される部分、3大キャリアというふうに言われてプラス1、4大キャリアになっているんですが、その複合する部分と、すぽんと抜け落ちてしまっている部分というのが、これは全国にもどこにも存在するものかとは思いますが、あえてその中で日野町の状況をお聞きしたいというふうに思ひまして、次の日野町内の移動通信、この状況、実態を詳しくお聞きしたいというふうに思います。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 3番、金川議員さんの御質問にお答えいたします。

まず初めに、金持テラスひのの、レンタルキッチンの現状の契約状況についてのお尋ねでございます。

金持テラスひののレンタルキッチンにつきましては、一般社団法人日野町観光協会と宝くじ売場などのスペースと併せて、平成29年12月1日から令和4年11月30日までの5年間賃貸借契約を締結しております。本契約につきましては、契約期間が満了する3か月前までに、解約または条件変更の意思表示をしないときは、この内容で2年間契約を更新することとなっております。このたび解約または条件変更の意思表示がありませんでしたので、令和6年11月30日まで契約を更新させていただいたところでございます。

次に、出店契約者区分費用負担と共有場所の区分についてのお尋ねでございます。

レンタルキッチンの出店者費用負担でございますが、レンタルキッチンの使用を希望する出店者は、町からの施設の借主であります日野町観光協会へ使用申込みを行い、使用後に売上げの1

5%を観光協会へ納めることとされております。15%の内訳としましては、10%がレンタルキッチンの使用料、5%が水道光熱費とされております。しかし、使用料の支払い時点では実際に使用された水道光熱費が確定しないことから、後日、実際の水道光熱費を算出し、事前に支払われた売上げの5%分の金額を超過していた場合は、追加金額を支払っていただくようにされているところがございます。また、レンタルキッチン出店者の共有場所の区分につきましては、金持テラスひのの、正面玄関入って右手の休憩スペース、これを飲食可能スペースとして町への使用許可の申請及び使用料を支払うことなく使用していただいております。

なお、休憩スペース以外の空きスペースまたは屋外を使用される場合には、町に使用許可の申請をしていただき、使用料を支払っていただくこととしております。

次に、今後のレンタルキッチン活用計画案についてのお尋ねでございます。

今後のレンタルキッチンの活用につきましては、町内外の飲食店等に気軽に出店いただけるよう引き続き、観光協会と連携しながらPRをしていくだけではなく、にぎわいづくりの拠点施設として、各種イベントの開催など人が集う取組を行う中で、レンタルキッチンの活用も積極的に働きかけていきたいと思っております。例えば、先月5日に開催いたしました海鮮・山鮮秋のまげなもん祭の際、レンタルキッチンにて日野町産の米と境港の海産物を使ったメニューを販売し、御好評をいただいたところがございます。このような催しを引き続き計画し、レンタルキッチンの活用を働きかけるとともに、日野町への誘客と特産品振興を図ってまいりたいと考えております。

最後に、日野町内での移動通信可能状態の実態についてのお尋ねでございます。

町内では、通信可能な携帯電話事業者、いわゆるキャリアは4社あり、町では10月に通信状況の実態調査を独自で行ったところがございます。現在取りまとめを行っているところがございますが、ほとんどの集落でどのキャリアも通信はできるようになってきております。ただし、キャリアによっては、通信状況が依然悪いところがあり、特に居住地域でいえば、久住原、久谷などでは、どのキャリアでも電波が届かない状況にあります。先日、NTTドコモ鳥取支社長が役場にお越しになられた際に、かねてから設置の要望があり、現在通信エリア外となっている鵜の池公園キャンプ場について、利用者増加を踏まえた必要性を申し上げるなど、そのほかの地区も併せた不感地区の解消をお願いしたところがございます。一方、各キャリアとも5Gに向けた整備が急務となっており、なかなか不感地区まで手が回らないといった印象を感じているところがございます。

今回の調査結果につきましては、現在、鳥取県が主体となって、県内の不感地区を有する市町村と一緒に、国や各キャリアに不感地区解消に向けた取組を強化していただけるよう働き

かけを予定しておりますので、引き続き鳥取県と情報共有し、今後の整備につながるよう働きかけを強めていきたいと考えております。以上でございます。

○議長（小谷 博徳君） 3番、金川守仁議員。

○議員（3番 金川 守仁君） まず、今のレンタルキッチンの件について、もう少し詳しく状況をお聞きしたいと思います。

更新時期、5年で更新で、何も変更がなければそのまま2年間は継続というふうにあります、町のほうから利用についての要望であるとか、そういうものの申入れだとか、そういうものはなされておられるでしょうか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 賃貸契約の期間、それからその契約更新に当たっての要望をどうしてるか、要望したかどうかというところでございます。

契約期間につきましては、結びました契約書第2条で5年間、そして契約満了の3か月前までに解約の申出とか条件変更の意思表示がないときは、2年間更新される、要は2年間自動更新されるってようなもので契約を更新したところであります。その際、もしくはその契約期間中に、いろんな申出を、何か具体的にしたかどうかというところでございますので、担当課長のほうから詳細を説明させます。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 五百川産業振興課長。

○産業振興課長（五百川和久君） 議員の御質問にお答えいたします。このたびの契約更新の前、11月に入ってからでございますが、レンタルキッチンの利用につきまして、観光協会側と御相談、お話をさせていただきました。レンタルキッチンの使用状況でございますが、過去のものをいろいろ確認してみましたところ、令和元年には34回、令和2年には11回、そして令和3年には25回ということで使ってくださっています。しかしながら令和4年が、先ほど町長もお話ししましたが、まげなもん祭の1回、それ以外に申込み、問合せが1度あったようなところでございます。

こちらのレンタルキッチン、特に、今回の建物の賃貸借契約の更新のお話をさせていただくに当たり、やはりカウンターですとか、それ以外のスペース、レンタルキッチン以外のスペースにつきましては、利用もされていらっしゃる場所なんです、レンタルキッチンについてやはり使用率を上げていきたいというところで、例えばなんですけども、このレンタルキッチンの活用を町の活性化につなげていけないかというところで、こういった取組が考えられるんだろうかというふうなお話をさせていただきました。

その中で、やはりにぎわいづくりの拠点として整備した金持テラスひのでございます。先ほども、イベント等を行っていくのも、もちろんのことなんですけども、やはり、日野町初の何らかの取組、日野町で作られた農産物を何らかの形で、例えばチャレンジショップ、チャレンジしてみたい、少し、何かそれを製品化して売れないだろうかとか、また日野町で特産品化を考えてみたんですけども、特に町の中からそういった動きができないかなとか、もちろん町内の飲食店の皆様が……。

○議長（小谷 博徳君） 課長、その活用計画は3番にまた質問があると思いますので、今の答えは、契約のときにこの利用促進についての要望を、町はしたのかしないのかというのが質問だと思うんですけどね。

○産業振興課長（五百川和久君） 分かりました。失礼しました。要望として、この利用促進を図ってまいりたいというような御相談を、お話を観光協会側とさしていただいております。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 3番、金川守仁議員。

○議員（3番 金川 守仁君） やはり、周りといいますか、何回かおいでになった皆様から、中に入って宝くじ買いに来られる方も結構多い、何回もリピートされる方もおいでになりまして、何か、あそこがずっと空いてるねというのが非常に目につくように、わたしも接している人たちからは聞いておりまして、二十何回というような使用をされてたいふうに今、お話がありましたけども、期間で借りられるのか、それともスポットで借りられるのかで、違うと思うんですよ、だから契約、その次のちょっと質問さしてもらいたいんですが、基本的に23回か20回かいろいろ年によって違うと思いますけども、ほとんどスポットでしょうかそれとも、例えば1か月間であるとか、1週間であるとか、何かそういうふうな面で借りられる人は、相談とか実績はございませんでしょうか。

○議長（小谷 博徳君） 五百川課長。

○産業振興課長（五百川和久君） 借りられる方の形態についての御質問だと思います。議員の御質問にお答えいたします。借りられる方がどのように借りられるか、スポットなのか期間なのかという御質問だったかと思います。令和3年度につきましては、スポットのほうが、期間としては4月、5月でまとまって借りられた方、そして、その後はスポット的に3日間ですとか、2日間ですとかということで、その状況によって異なりますが、どちらかというとなんスポットが近年は多いように感じております。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 3番、金川守仁議員。

○議員（3番 金川 守仁君） 私も質問の中で、レンタルキッチンの契約書の隅から隅まで全てを見てるわけじゃないんですけども、ある意味、レンタルキッチンという意味合いの活用性というのが、非常にどうなんかなというふうな、ほかのエリア、ほかの入店者とといいますか、お借りされてる皆さんと、それは収入のほうにも多分、これは観光協会さんが収入されるのか、日野町がもらえるのかいうのもあると思いますけども、そこにも大きく関係してくるのではないかと思います。

そういうので次の、2番目の質問で、実はフリースペースの中の借用料とといいますか、先ほど町長が御説明されましたように、例えば、食べ物とか、飲物とか何かの場合にはテーブルを使ったりいろいろされると思うんです、お客様はね。そのときのキッチンをレンタルする場合には、そういう附帯設備の負担金というものはあるんでしょうか。

○議長（小谷 博徳君） 使用料じゃないね、負担金というのがあるかないか。

五百川課長。

○産業振興課長（五百川和久君） 議員の御質問にお答えいたします。入り口入って右側のフリースペースとといいますか、休憩スペースの部分につきましては、レンタルキッチンの出店者の方、レンタルキッチンに出店される方からは、負担金のようなものは、負担金は徴しておりません。町への使用許可申請及び使用料を支払うことなく、使用はしていただいております。先ほども町長、本問いの答弁でおっしゃられましたが、休憩スペース、この休憩スペース以外の空きスペースを利用される場合、また屋外を使用される場合につきましては、町のほうに使用許可申請をしていただいております。

○議長（小谷 博徳君） 3番、金川守仁議員。

○議員（3番 金川 守仁君） 使用料は要らないってということですかね。使用許可だけを求めるということですか。

○議長（小谷 博徳君） 共有スペースは要らないという答弁がここに書いてある。

○議員（3番 金川 守仁君） で、よろしいですか。

○議長（小谷 博徳君） いいですかいね。（「はい」と呼ぶ者あり）

重ねて聞かれますか。

3番、金川守仁議員。

○議員（3番 金川 守仁君） かなり、基本的にキッチンだけなのかとか、そのスペースなのかという借りられる人の、それは話をすれば分かるんですけど、見に来て、ぱっと見られたときに、これレンタルキッチンだから使えるんだよねというふうなイメージと、それから、いや、もっと

附帯のものがたくさん必要なんだよというのかその辺の、ちょっと言い方を変えると、PRの仕方が非常に、あまり借りてほしくないのかなとか、いやあ借りても高いのかなとか、それはその受けられる人のあれなんですけども、その辺がちょっと見えないのかなというふうな、私も不安がありました。お聞きされたので回答したいんですけども、ちゃんと調べてから回答しないと、それは町に聞いてくださいと、観光協会に聞いてくださいって言うしかないなと思ひまして、もうちょっと勉強しなきゃいかんなと思ったんですけども。

それで、あと今の中で、実は使用料、レンタルする使用料なんですけど、この15%の内訳としてという説明をお聞きしましたが、その光熱料、水道光熱料が5%というふうに御返答いただきました。その中に、要するに5%の金額を超過していた場合は、追加金額を請求させていただきますと、こういうふうになっております。その使用金額の、売上げの5%という、もうちょっと詳しくこの辺の仕掛けをお聞きしたいんですけど。

○議長（小谷 博徳君） 5%の算出基礎かな。

○議員（3番 金川 守仁君） はい。（発言する者あり）

○議長（小谷 博徳君） 言えますか。

○産業振興課長（五百川和久君） 質問の回答。

○議長（小谷 博徳君） 5%の算出基礎を。

○産業振興課長（五百川和久君） いや、基礎、難しいですね。観光協会が出しておる……。

○議長（小谷 博徳君） なら、その答弁してください。

五百川課長。

○産業振興課長（五百川和久君） 議員の御質問にお答えいたします。こちらのほう、日野町観光協会様のほうが定められておられます。場所代が10%、光熱費5%ということで、恐らくは、町から借りられて、それを使用されるときの大体の経費を算出されて出されているものと思います。直接、なぜ5%かということにつきましては、こちらのほうも詳細説明はできかねるところでございます。以上でございます。

○議長（小谷 博徳君） 3番、金川守仁議員。

○議員（3番 金川 守仁君） 今の答弁の中で、とにかく細かい部分、借主が実際に契約される場合は、全て観光協会さんとの話合いでということの理解でよろしいでしょうか。

○議長（小谷 博徳君） 五百川課長。

○産業振興課長（五百川和久君） 議員御指摘のとおり、申込みから許可まで、観光協会のほうで行っていただいております。この料金につきましても、観光協会のほうで定められているもので

ございます。以上でございます。

○議長（小谷 博徳君） 3番、金川守仁議員。

○議員（3番 金川 守仁君） 分かりました。実は、例えば日曜日スポットで借りる場合と、面で借りる場合との金額がかなり違うというのは、観光協会さんのほうが差配されますので、私どもがここでどうこうというわけにはいかないということだと思います。簡単、もう、本当に率直に言いますと、今後この施設、場所、要するに3番目の質問になるんですけども、今のようないろいろな部分が見え隠れして、本当に、明確に私どもが理解できる部分で、ほかの利用者さん等々も、とにかくじゃああそこでテスト的にやってみようとかかそういう、向こうに何ちゅうか、出店できやすい形の何かPRといいますのは、それは町のほうから観光協会さんのほうにお願いすることとなるということでしょうか。

○議長（小谷 博徳君） 五百川課長。（発言する者あり）

五百川課長。

○産業振興課長（五百川和久君） 議員の御質問にお答えいたします。先ほども、町長、本問いのほうで述べられましたけども、実際には、ここを利活用していきたいというところで、町といたしましても金持テラスひのを設置した、管理している町といたしましても、やはり利用の促進というのは図っていく必要があると考えております。もちろん観光協会に全てを借りてはいただいているものの、町としてもここを使った特産品振興、そして日野町への誘客、観光振興を図ってまいらなければならないと考えておりますので、議員御指摘のとおり、広報の部分ですとか、利用しやすいように、何か町でもできることがあるかもしれません。その辺りは観光協会と一緒にしながら考えてまいりたいと考えております。以上でございます。

○議長（小谷 博徳君） 3番、金川守仁議員。（「町長が答えること」と呼ぶ者あり）

重複しない答弁をしてくださいよ。

埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 私のほうからはちょっと補足っていうのをさせていただこうかなと思います。要は、そういう利用の仕方っていうか、利用に当たっての注意事項とかそういうのが見える化されていないっていうのが大きな問題、関係者は知ってるけれども、ぱっと見て、読んで分かるとか、そういうものが見える化、要は文書化するとか、簡単な文書でちゃんと常設しておく、観光協会さんとかに。そういうような取組をしないといけないなって、今、御質問を受けまして思いましたので、観光協会と一緒にやって作成したいと思います。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 3番、金川守仁議員。

○議員（3番 金川 守仁君） ありがとうございます。町長のすごいバックアップをもらいましたので、かなりその辺で、利用する人もためらわないで相談してみようかなとか、何かのこういうきっかけづくりになるし、なおかつ、実はピザ屋さん等々が、いろいろ聞きに来られたりしてるところもあるんです。それだったらそれで、観光協会さんに一回聞いてみたらって、私も投げるよりは、もうちょっと町のほうとも確認して、いろいろ相談してみましようというようなことも、ちょっと話をさしてもらっていますので、またそれはさくまうわけにいきませんが、ぜひ、そういう皆さんも、町民の皆さんもいろいろそういうところで知っておられたほうが、相談があった場合に、非常に窓口が広がって広報活動ができるんじゃないかなろうかと思いますので、ぜひ、このレンタルキッチンについては、有効的にもっと活用ができるように、アイデアとしては五百川課長も御存じかと思いますが、いろんな商売とダブると、この町内のね、というのはあんまり気にしなくてもいいと思うんです。とにかく、あそこが利用されて、例えば、粉もの屋さんでもあったり、いろんなものが出てよろしいかと思います。

最後に、このキッチンについてはもう一つお聞きしたいのは、今、キッチンカーが非常にブームになっておりまして、そのキッチンカーが出る場合は、これは中じゃないですから、金持テラスの外にキッチンカーが来るわけですが、それは申込みだけでよろしいのでしょうか。それとも、僕は町のほうの申込みだと思えますけども、ここにお答えいただきましたが、申込みだけで使用料とか何かは要らないのでしょうか。

○議長（小谷 博徳君） 五百川課長。

○産業振興課長（五百川和久君） 議員の御質問にお答えいたします。こちらのほう、先ほど本問いにも関連いたしますけども、金持テラスひのの屋外に出店し、商業行為を行う場合に該当するものと考えます。この場合には、半日、そして1日で、あと平日か土曜日、日曜日、祝日かで料金分かれるんですけども、こちらのほうをまず申し込みしていただいて、それから使用料をお支払いいただく、あと電気料金、水道料金、別にいただくような形に該当しようかと思えますので、そのようなところで、出店の申込みをしていただくことになります。以上でございます。

○議長（小谷 博徳君） 3番、金川守仁議員。

○議員（3番 金川 守仁君） ありがとうございます。キッチンカーも、例えばレンタルキッチンも、どちらかというと同じような商売のようなイメージになりますが、レンタルキッチンのほうは高く、出店の外でやる分は安いという場合は、どうしても外で商売されるほうが多くなるんじゃないかなろうかと思えますし、その辺もいろいろ調整をされて、今の金額がどうこうとは私も言いませんけども、その調整をしていただきたいというふうには思います。

- 議長（小谷 博徳君） 金川議員、レンタルキッチンは、質問事項から外れていますのでね。
- 議員（3番 金川 守仁君） あっ、いえいえ。要するに、レンタルキッチ……（発言する者あり）
- 議長（小谷 博徳君） ああ、レンタルキッチンじゃない、キッチンカー。
- 議員（3番 金川 守仁君） そうです。そこが、外の。
- 議長（小谷 博徳君） いや、だんだん外れてくるので。
- 議員（3番 金川 守仁君） いやいや、外れませんよ。
- 議長（小谷 博徳君） はい。
- 議員（3番 金川 守仁君） キッチンを借りれない問題は、そこにキッチンカーで来たほうが安いという場合は、中を使うよりは外で商売したほうがいいわけですよ。だから、そこで外れてはないんで、レンタルキッチンが使いやすいようにしてあげたらいいんじゃないかということで、今ちょっと質問したわけです。
- 議長（小谷 博徳君） 質問を遮ったので、関連があるなら。
- 議員（3番 金川 守仁君） 一応、今のところで私のほうの、このレンタルキッチンのほうは、一応町長のほうにも、要するに出られる方、出店される方のメリットをかなり考慮していただいたほうがいいんじゃないかなというふうに思ったものですから、確認をさせていただきました。そうしましたら次の、移動通信基盤整備、これについてお伺いします。
- 一部、携帯云々につきましては、かなり専門的になりますが、3G、4G、5Gという形でどんどん大きく、高くっていいですか、安いもの、モバイル系というのは安いというふうに私も判断しています。もともとの携帯の5Gを狙って、国のほうは政策は進めているわけなんです、中山間地のエリアの対策というのが、少し、全国的には遅れているというふうな情報もありまして、鉄道でいえばトンネルであるとか、都会でいえば地下鉄であるとか、そういうところを電波管理をしていろいろ動いてる、国で動いてる組織がありまして移動通信基盤整備協会、こういうところが、その地域の問題点であるとか、そういうところをキャッチしながら、ほとんどは業界が利用してるあれなんですけど、業界団体なんです、極端に言いますと、例えば観光で来られた鵜の池のエリアで、キャリアが通じない。全くそこに、ちょっと町としても、まだいまだに、手がついていないというのは確かに、キャリアのメーカーさんをお願いするのではなくて、そういう整備協会というのがあるわけですから、そういうところへ打ち上げをしていただいて、その町内っていいですか、それぞれの町内あると思うんですよ、そのエリアでいろいろ問題提起をしていただければと思うんですが、そういうのはなされていますでしょうか。

○議長（小谷 博徳君） 整備協会。

埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 通信の不感地域の関係でございます。本問でも申しましたけども、キャリア4社の関係の調査をして、特に鶉の池につきましては、具体的お話が議会のほうでもございまして、NTTさんが、ドコモさんがおいでになったときに、お願いしたところであります。鶉の池の状況は、エーユーは入りますけども、よくこの地域で使われてるNTTさんのものがちょっとってことでございました。

今、お話を伺ってますと、DXの、今日の1問目でもございましたけども、DXってみんなの幸せのために、誰一人取り残さないっていう、国がそういうことをちゃんと言ってるわけですから、不感地域の解消を基礎自治体に全部任すっていう話ではなくって、国とか、それから業界、今、議員さんおっしゃいましたそういったところで、やはり責任を持ってっていうんですか、やっていていただきたいっていうようなことを要望をしたいと思います。実際はキャリアさんのほうにしか、今、要望はしておりませんが、流れの中では恐らく、県そして県内の市町村が一緒になって、いろんな不感地域の解消をする。さらには鳥取、岡山の県境地帯の自治体と一緒に、不感地帯の解消をする、そういったときの考え方の中で整理をさせていただくようになろうかと思っております。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 3番、金川守仁議員。

○議員（3番 金川 守仁君） ありがとうございます。実は、今町長がおっしゃった電波遮蔽対策事業というのが、総務省のほうでも動いておりまして、今までは、国のほうの動きも新幹線の中だとか、トンネルの中だとか、今の地下鉄、地下道、そういうところはかなり重点を置いてキャリアのほうは動いておりましたが、先ほど言いましたように、中山間地であるとか、山陰であるとか、そういうぽつんと落とし穴のような場所がないかどうかというのも、かなり積極的に、ジャパン・モバイル・コミュニケーションズ・インフラストラクチャー・アソシエーション、こういうところがかなり力を入れながら、見落としがないか動いてるようです。したがって、ぜひ、そういうところの情報も、ネット等々で見れば出てきますので、タイアップといいますか、情報を上げていただいて、ここは何とかしてほしいというような動きもお願いできればというふうに思いますが、それは今後どのように、情報は取られますでしょうか。

○議長（小谷 博徳君） 今の、何とか、インフォメーションとかいう、そういうところに働きかけを今後もするかということだと思います。

埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 先ほどの追求でもお答えしましたけども、具体的に今、私のほうでやっているのは、キャリアさんに対する働きかけでございます。御提案のありましたところにつきましてはまだ、そういうことをやっておりません。周辺状況としましては、県内、さらには鳥取、岡山の県境の自治体、問題意識、課題意識を持っています。その要望のやり方とか手法、解消のやり方として、御提案のことも当然含まれると思いますので、そういうところで連携してやってまいりたいと思います。

○議長（小谷 博徳君） 3番、金川守仁議員。

○議員（3番 金川 守仁君） ぜひ、いろんな業界団体とか、そういうところへ連絡密にさせていただいて、助け船を出していただければというふうに思います。一番最初に、そのつながらない場所、日野町に大体どのくらいあるかというのを、私も質問の中にちょっと入れてますけども、多分、鵜の池だけではなくて、私が個人的にGPSっていうんですか、それ全部車に、ナビのほうで積んでますので、それでずっと走ったところによりますと、かなりまだ不感エリアがあるように感じます。これはちょっと、私のほうが先にお話しさしてもらいますと、例えば、今の、何ていうんですかね、門谷の、門谷の一番奥のほうといいますかね、そこにポケットみたいに入らないエリアあります。それは、一部だけしかないですけど、そういうところも実際に、車で職員さんが、作業だとかなんかで走られてますと、入らないとかそういうのが分かると思いますので、そういう情報もぜひ皆さんで共有をしていただきながら、そういうところへアピールしていただければと。一業界では動けないらしいですね、そこに。共有、言えば、不感知エリアを代表するのは、パートナーエリアというのが今度できてくるらしいです。それぞれがパートナーエリアで共有をし合うという、災害等々にはね。そういうところもありますので、ぜひマップをしっかりと色分けをして対応をしていただければと思います。

時間が来ましたので、一応これにつきましては要望でございますので、返答はございませんので、私のほうの質問は終わらせていただきます。以上で質問を終わります。

○議長（小谷 博徳君） 3番、金川守仁議員の一般質問が終わりました。

○議長（小谷 博徳君） 以上で本日の一般質問を終わります。

お諮りいたします。本日の会議はこれで散会いたしたいと思いますが、これに異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小谷 博徳君） 異議なしと認めます。よって、本日はこれで散会することに決定いたし

ました。

本日はこれで散会いたします。

会議の再開は、12月9日午前10時といたします。御協力ありがとうございました。

午後3時41分散会
